



茶傳集

全

ヲ多
651





茶傳集上

道具之表

唐物香合茶入茶入の名同名目の名番好の名茶
入の蓋并内張の事

一番合の名 十一名 切月 人形 海軍 尾折 菱

花鳥 曲く 大板 折枝 編蓮 密形

一茶入の名 十三名 肩衝 茄子 文琳 大海

露尾 丸壺 水滸 手 湯桶 瓢箪

瓶頸 飯洞 柄

一花入の名 十名 花瓶 丸帯瓶 三耳口 細口

弦鈴 七拍子口 三重燕 掛子口 蓋子 括梗口

双口 大隔 魯形 雁帯瓶

一番炉の名 十二名 圓香炉 寸下香炉 寸のこ香炉

捧香炉 穂尾香炉 梅香炉 鴨香炉 狗香炉

脚寸足 蝶足 くるり足 乳足

夜の寢大板のしつゝとへへ 夜の寢のしつゝとへへ

備遠とさきふと云 一彫りる花の寢と云 切目と云

と云

一別紅 文赤地雲水草備遠笑の彫り飛舟人形香炉板

色と彫と云

一堆紅 色赤地夕陽重一ツ又二も五と云

一堆赤 色赤ノ層ノ彫り色も重一ツ重一 堆赤の層と

堆紅と云 一堆遠合縁の板ノ色赤と云

一堆鳥 色赤赤重一と云地を彫りしつゝとへへ

地と彫るをさす比嘉の曲くむし

一金簪 色赤多々すき多々すてふはゆき色香合ふそのくり
花の曲くすきゆき

一黒金簪 色黒すき大映古 色黒すき曲く色比二又青水と

一桂將水 色黒すき一又二も色黒すき曲く色比二又青水と

彫り別紅彫すき色黒すき花を彫らぬとてさす明あすて

黒彫す地彫すき

一九連の糸 色赤金簪の重さ少く色黒と

一紅帯保型 花多々すき色黒すき

一松板 上の文黒すき色黒すき彫すき色黒すき

一草すきすきすき 一草すき色黒すき彫すき黄赤色と一割合

一天目 曜変 建蓋各々すき色黒すき茶の色彫すき

一建蓋の月の上すき

一油滴の石の曜変すき色黒すき茶の色彫すき

一建蓋の上すき色黒すき油滴すき色黒すき

一散蓋 湯蓋 鳥蓋 黒り建蓋茶すき湯蓋

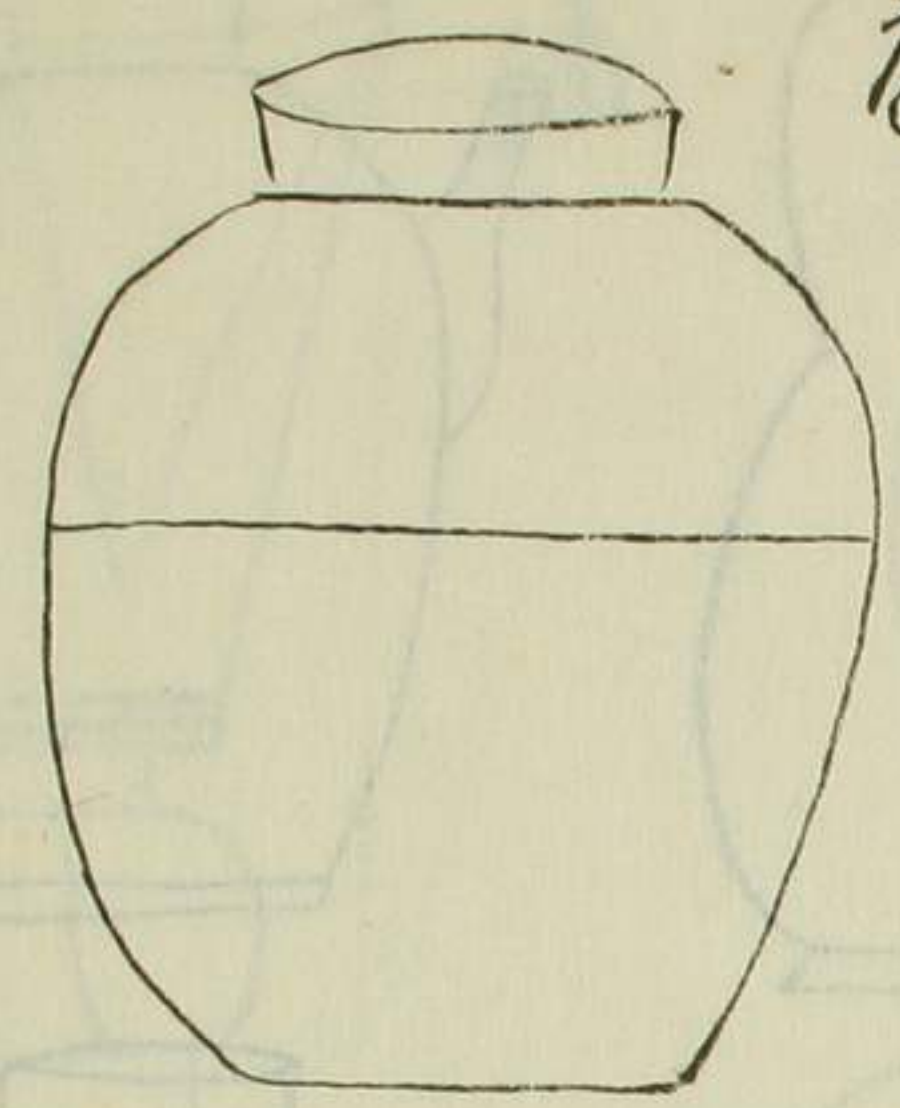
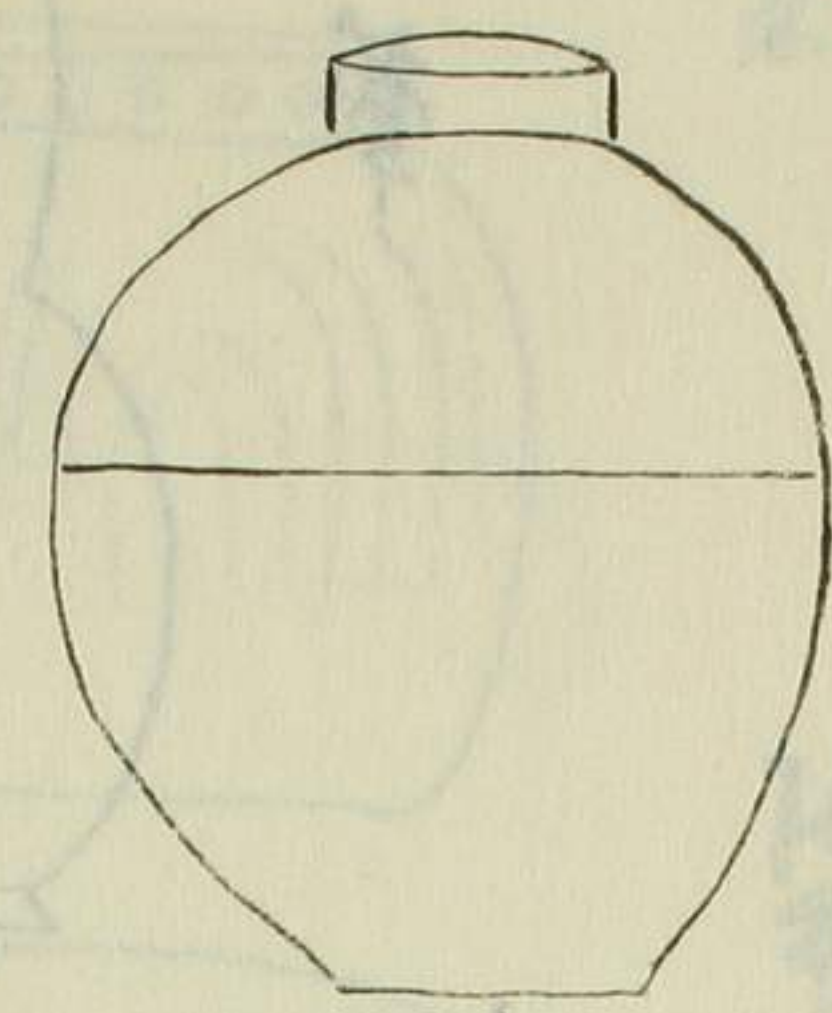
一 徳皮蓋と云おる地蔵の星みち徳の字徳ハハ之徳派法

力ナト類

一 天自此角ノ所ノ有建蓋小似

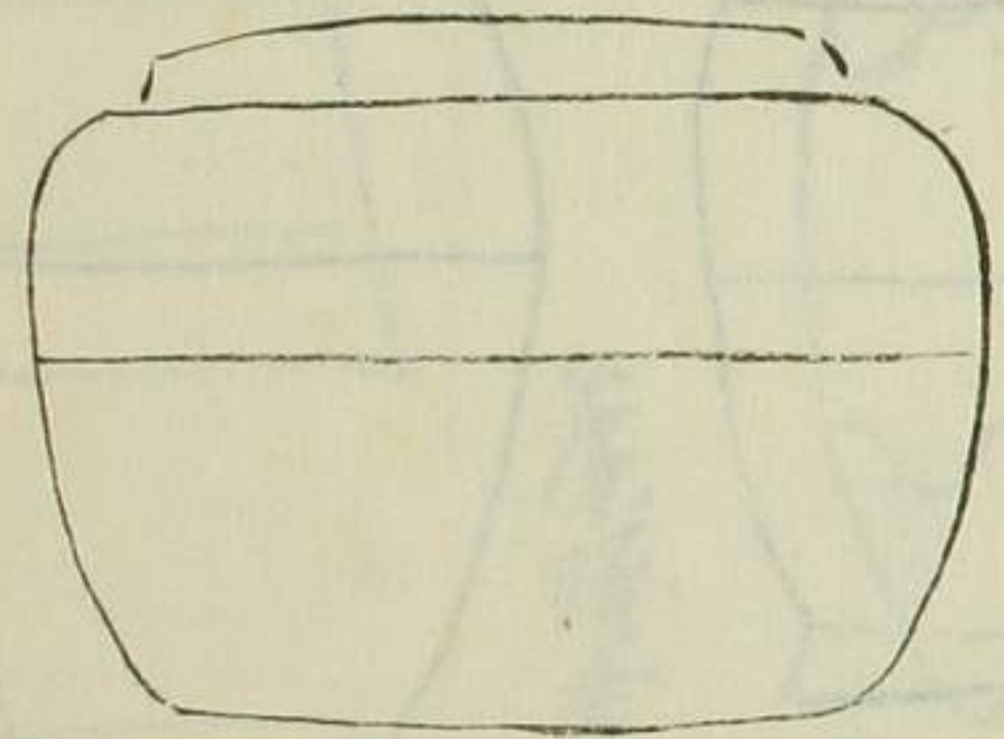
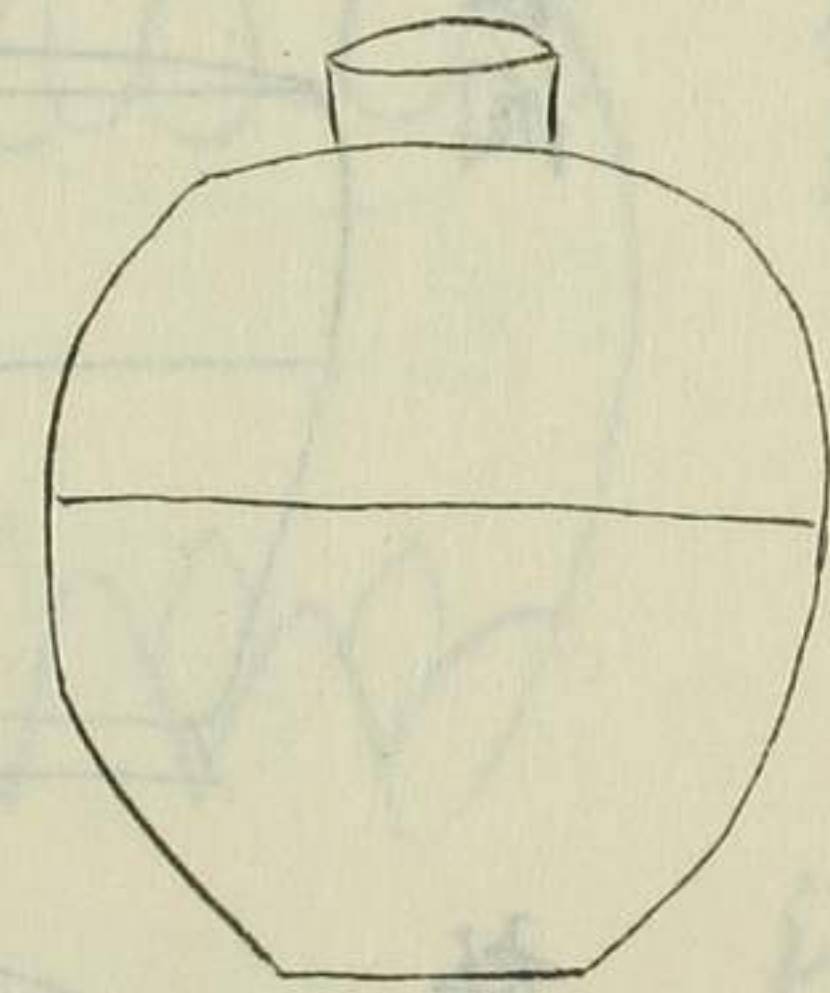
葎

葎



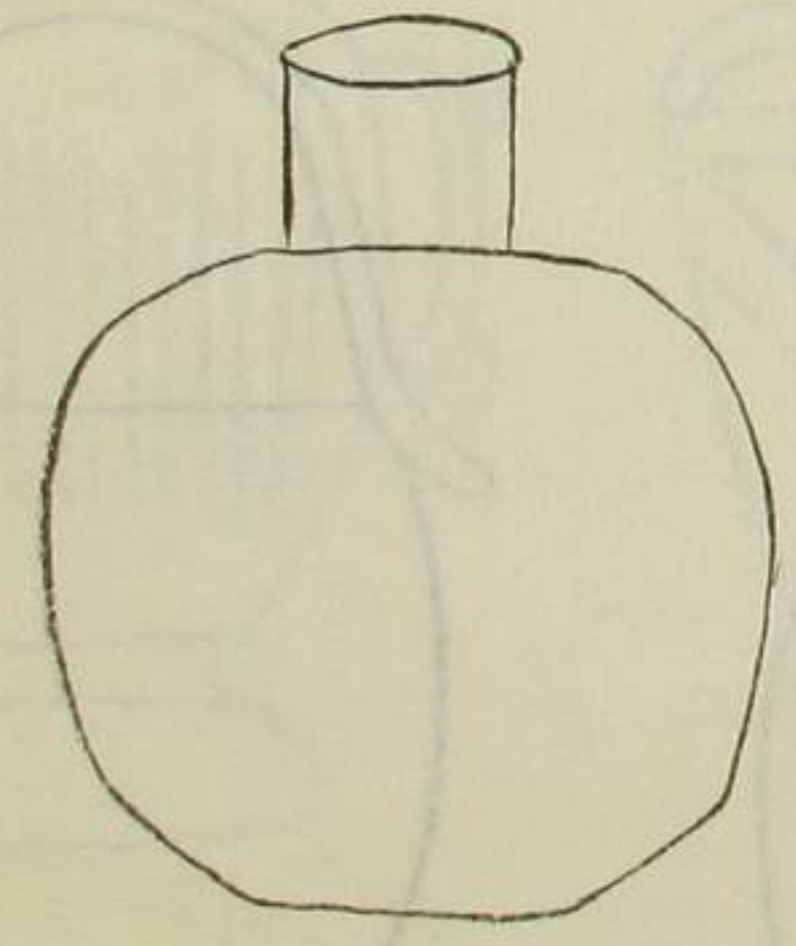
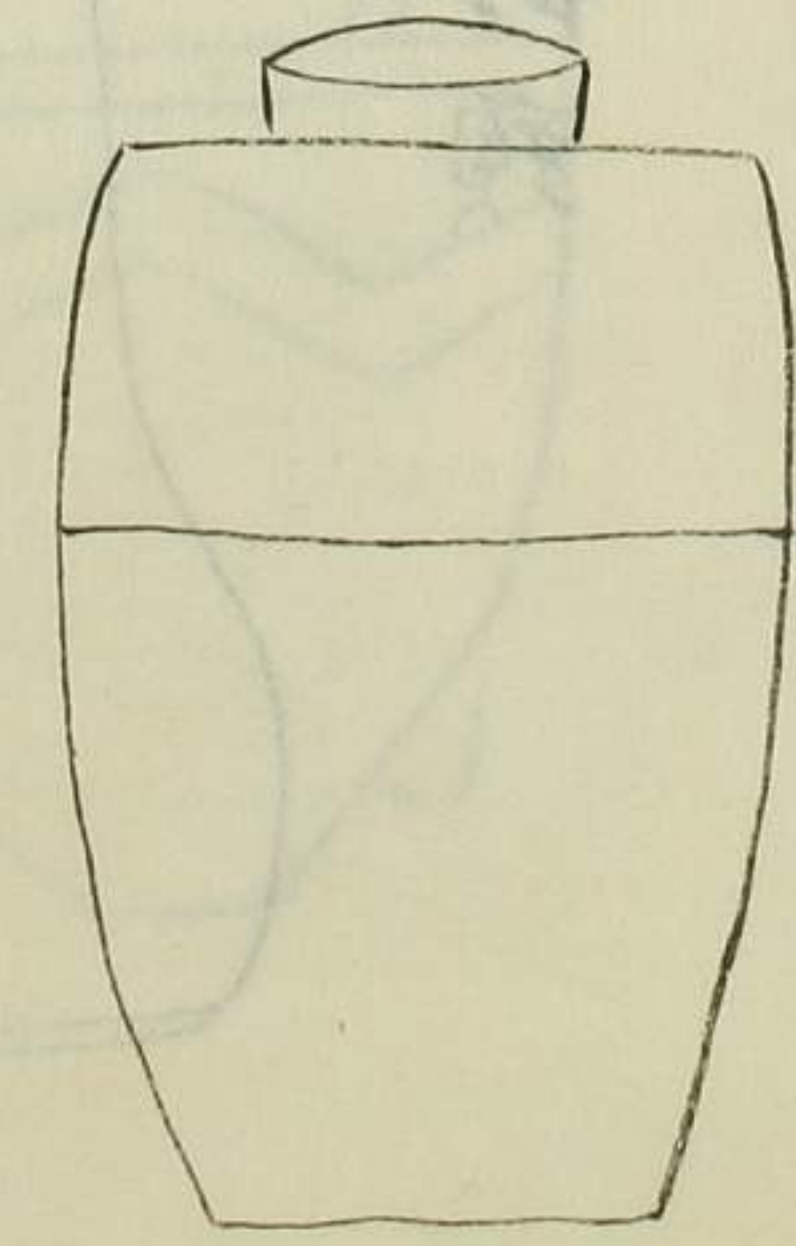
文淋

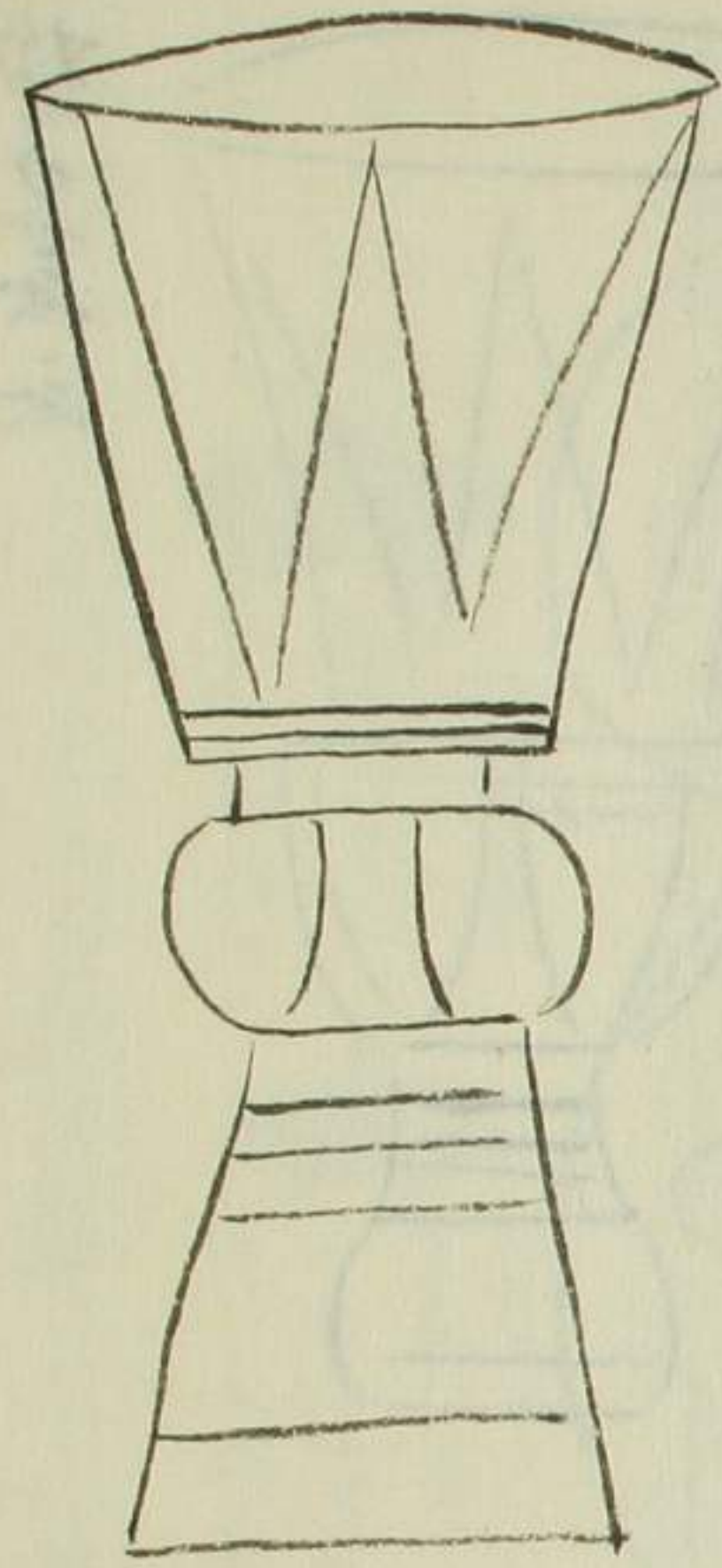
大海



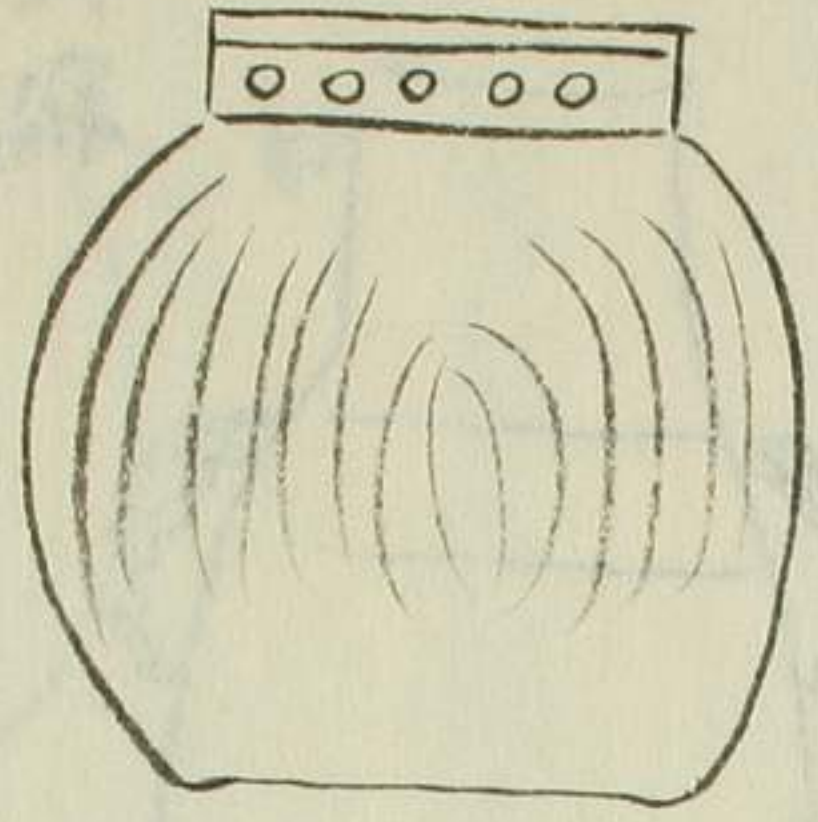
肩衝大小看

丸蓋

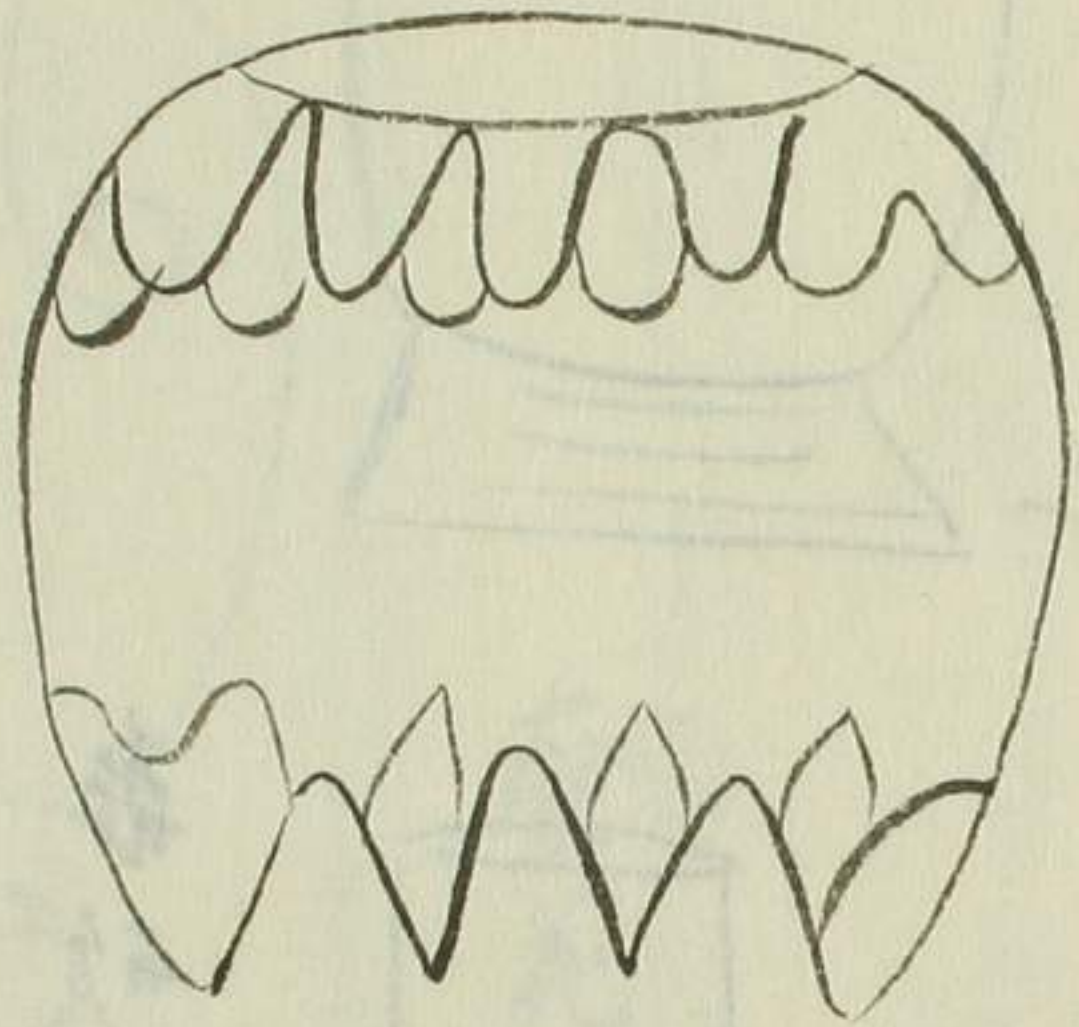




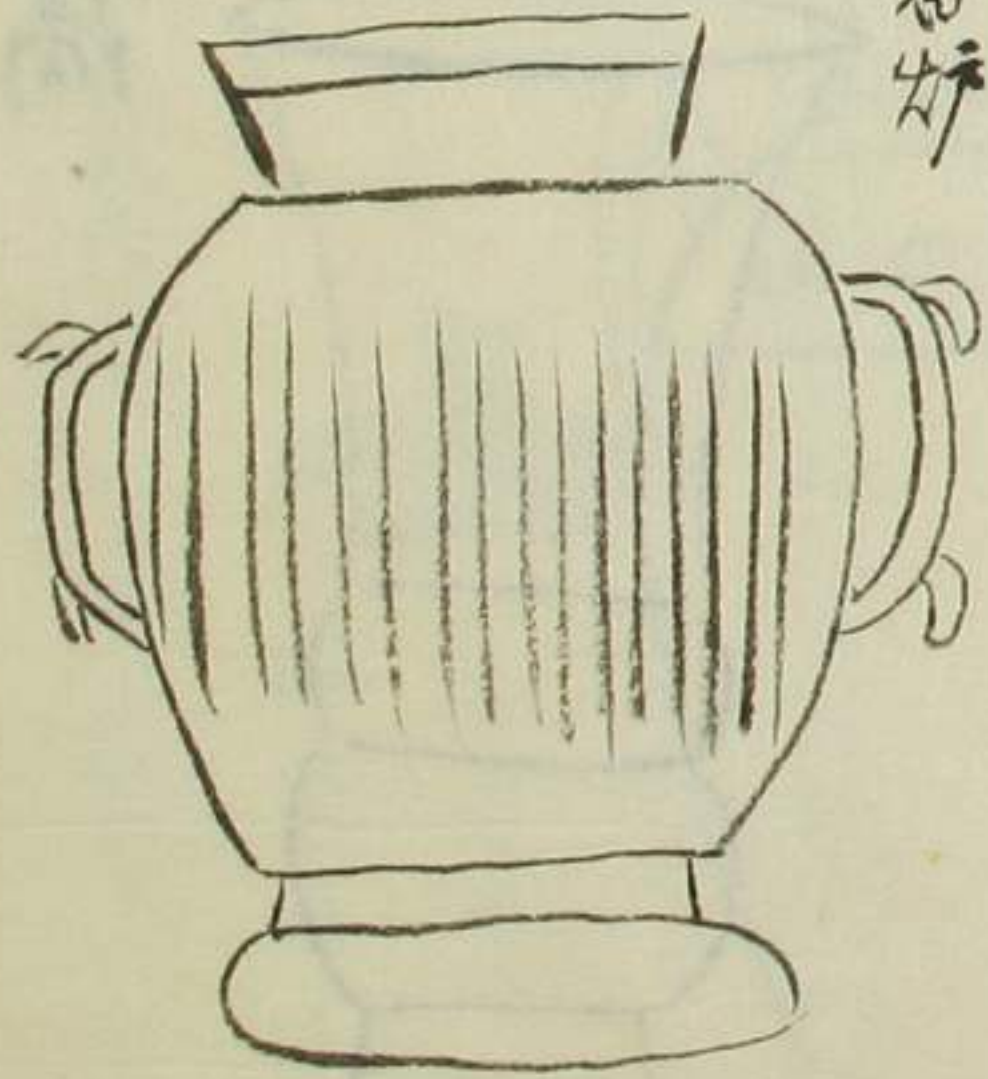
大滴



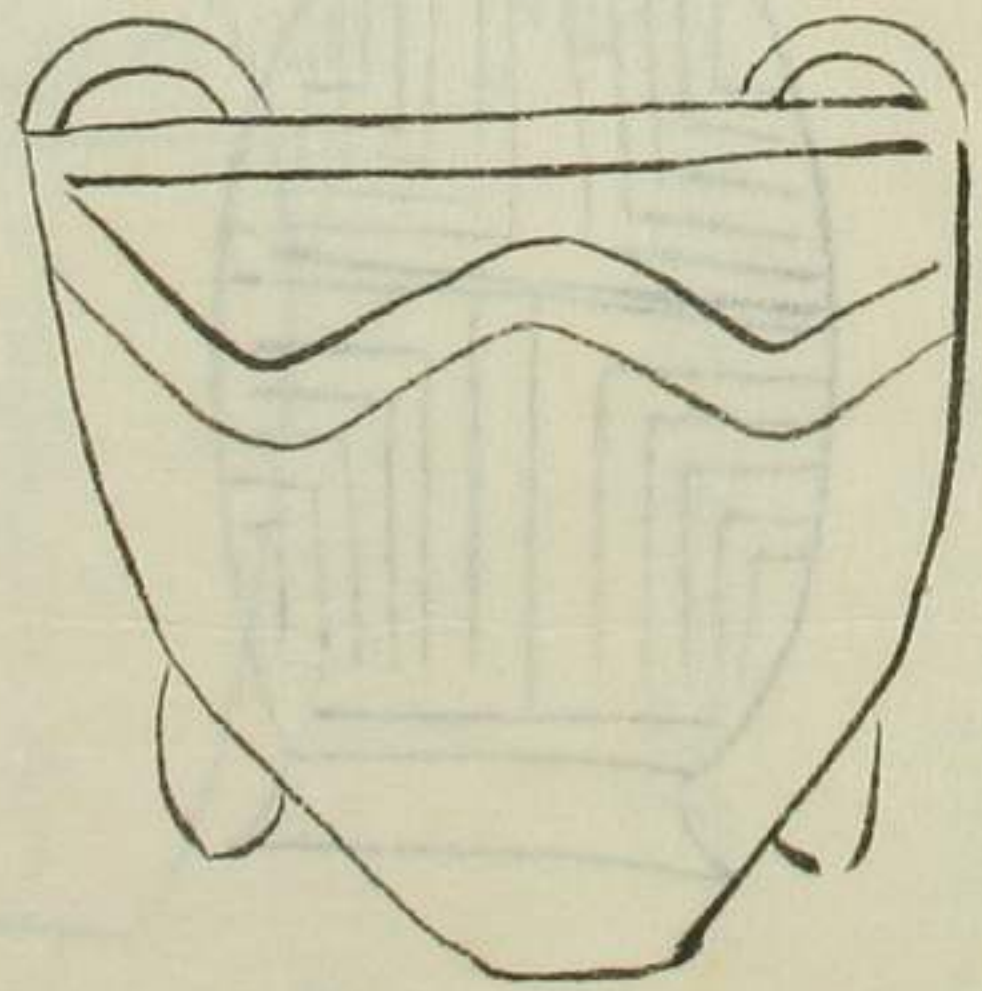
板瓦



陶器茶器

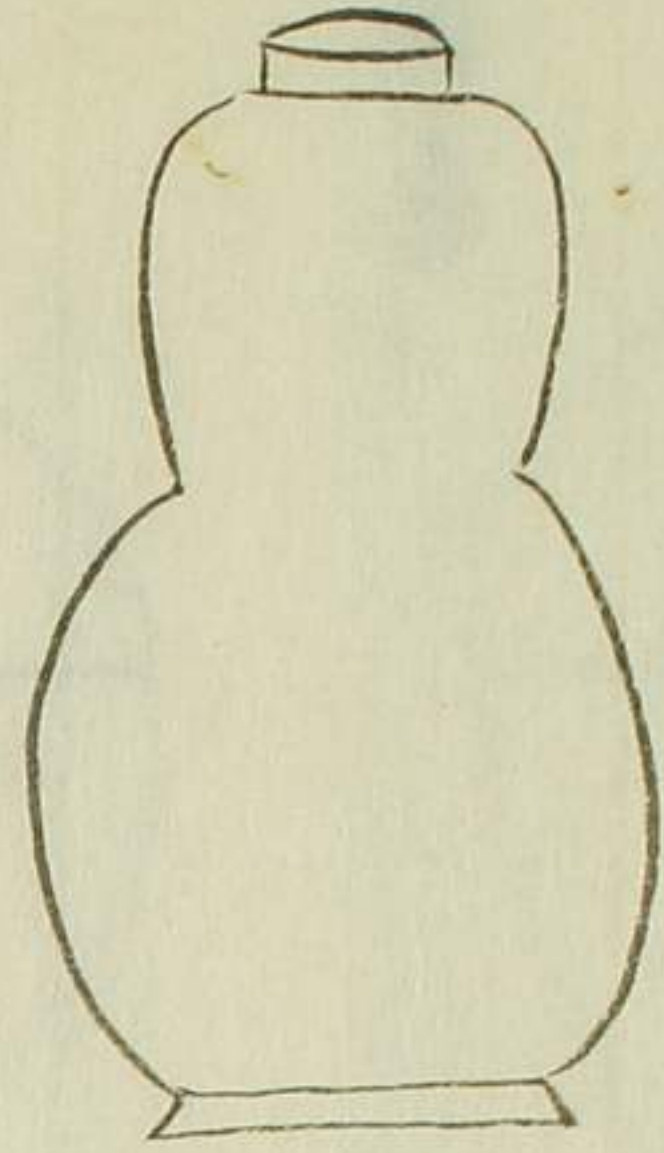


小滴

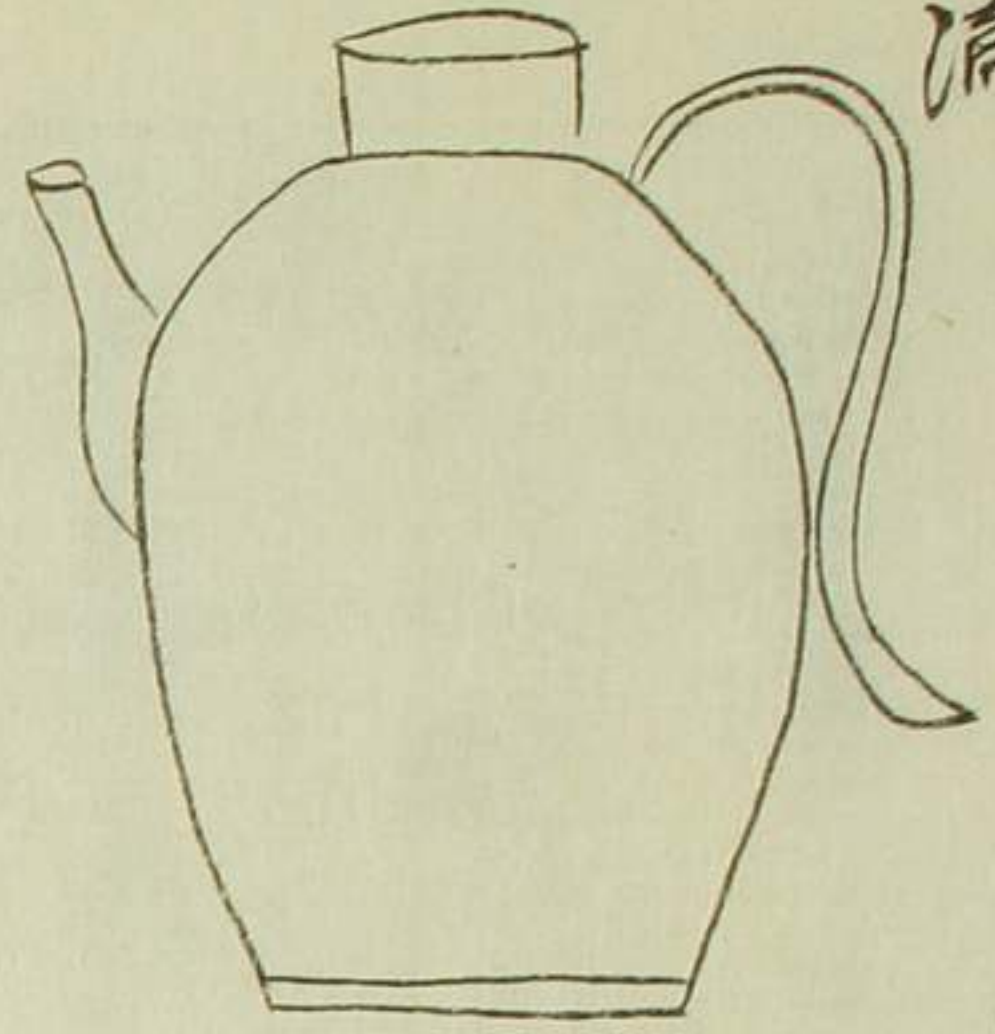


洋香炉

瓢葦

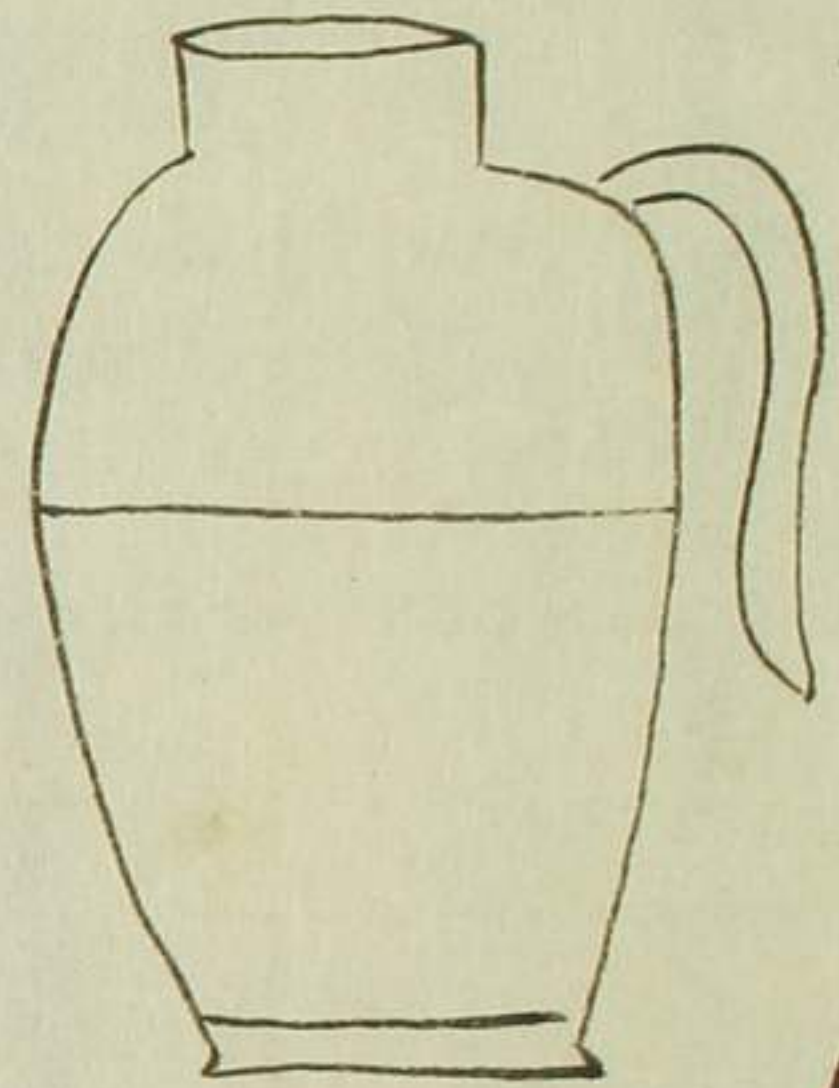
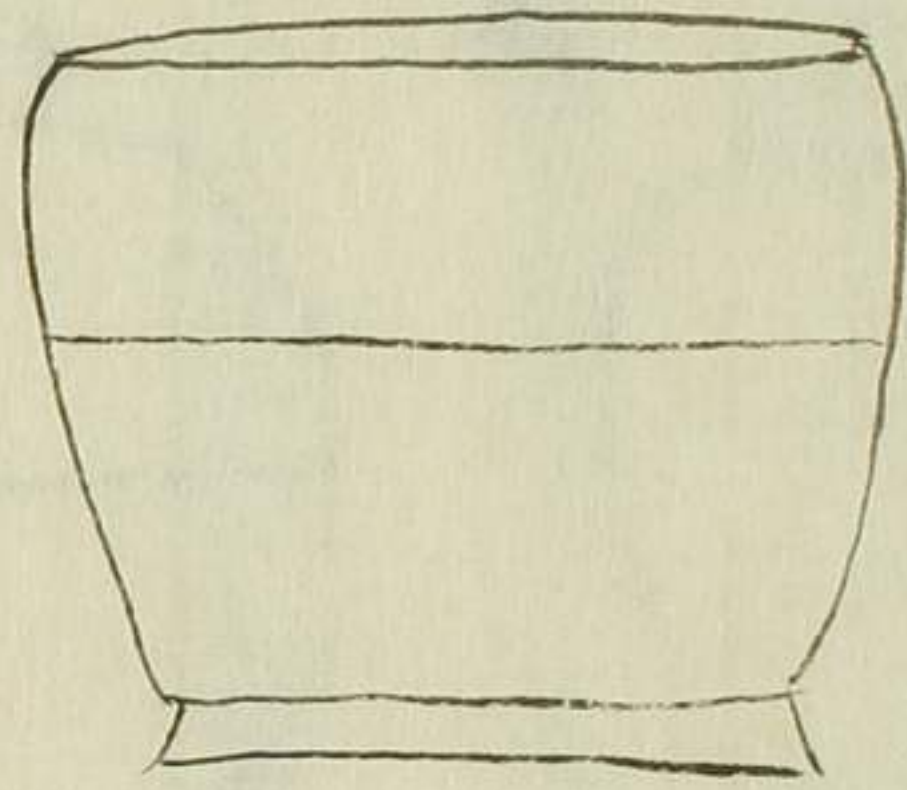


水滴



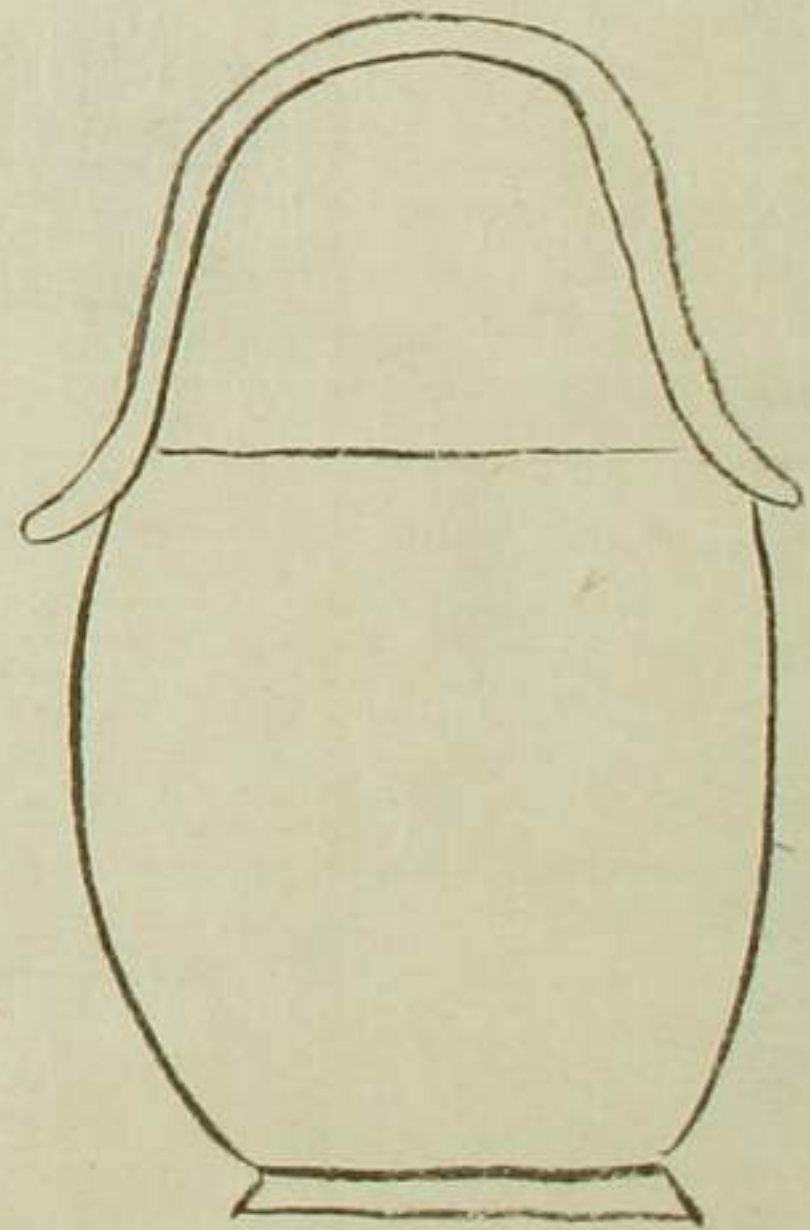
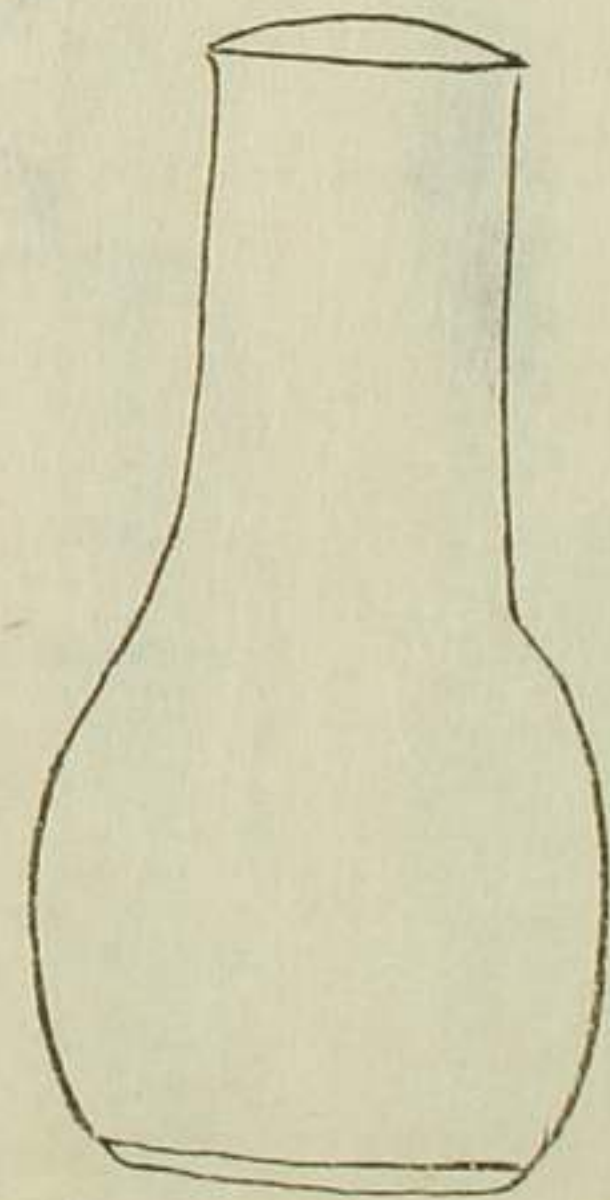
手無

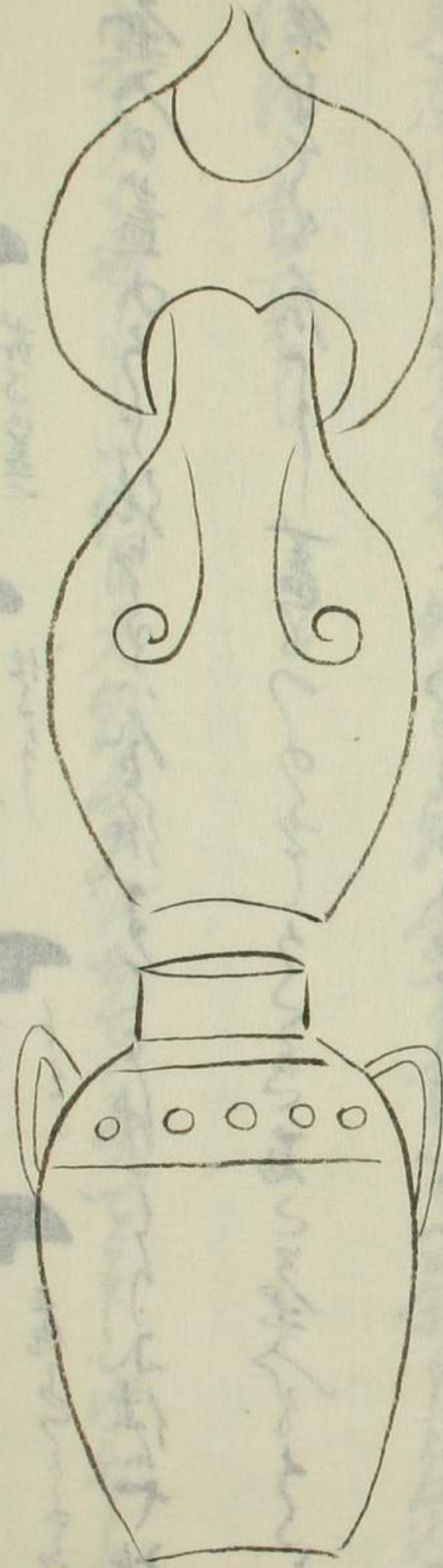
飯酒



湯桶

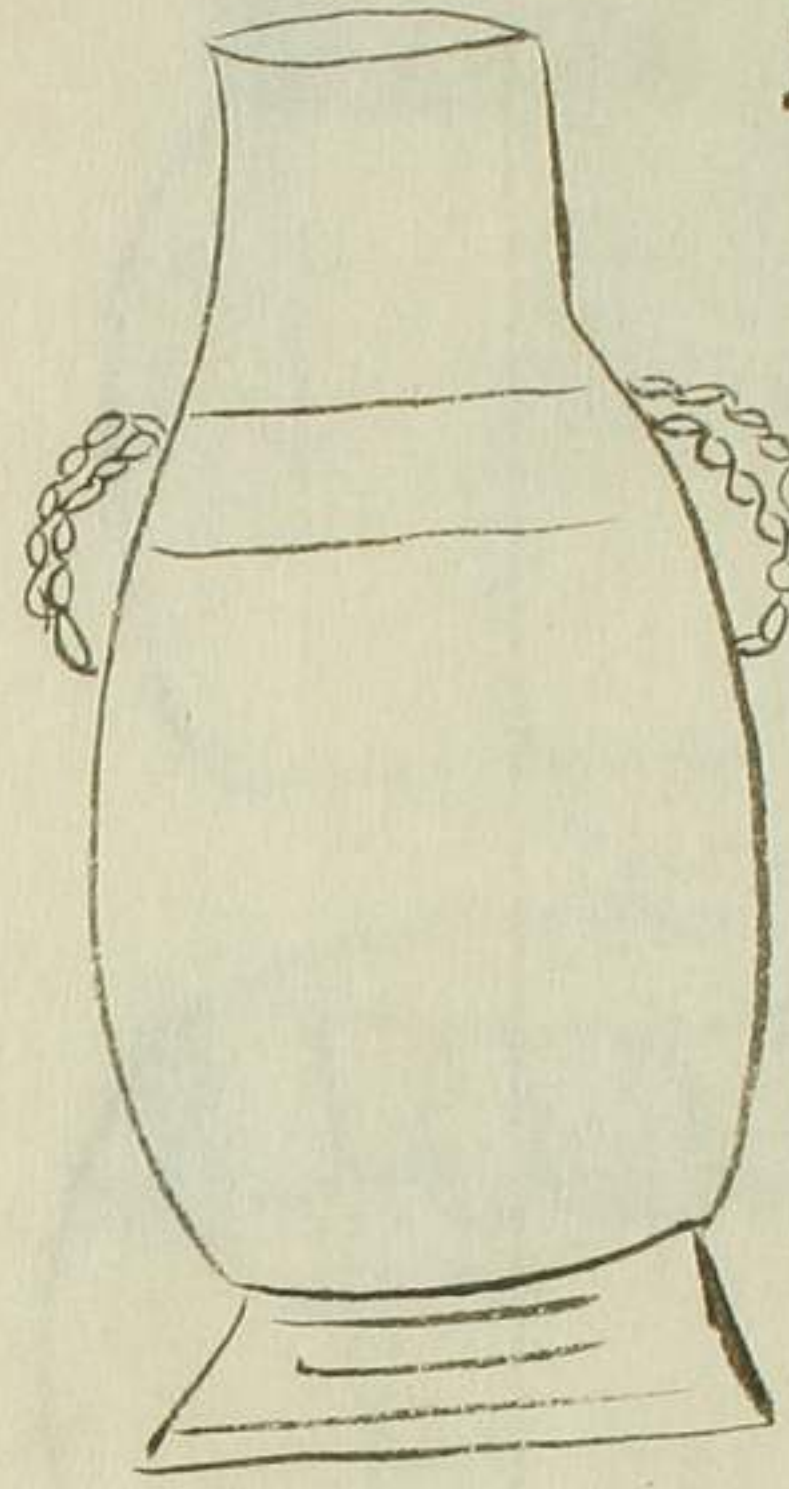
鶴頸



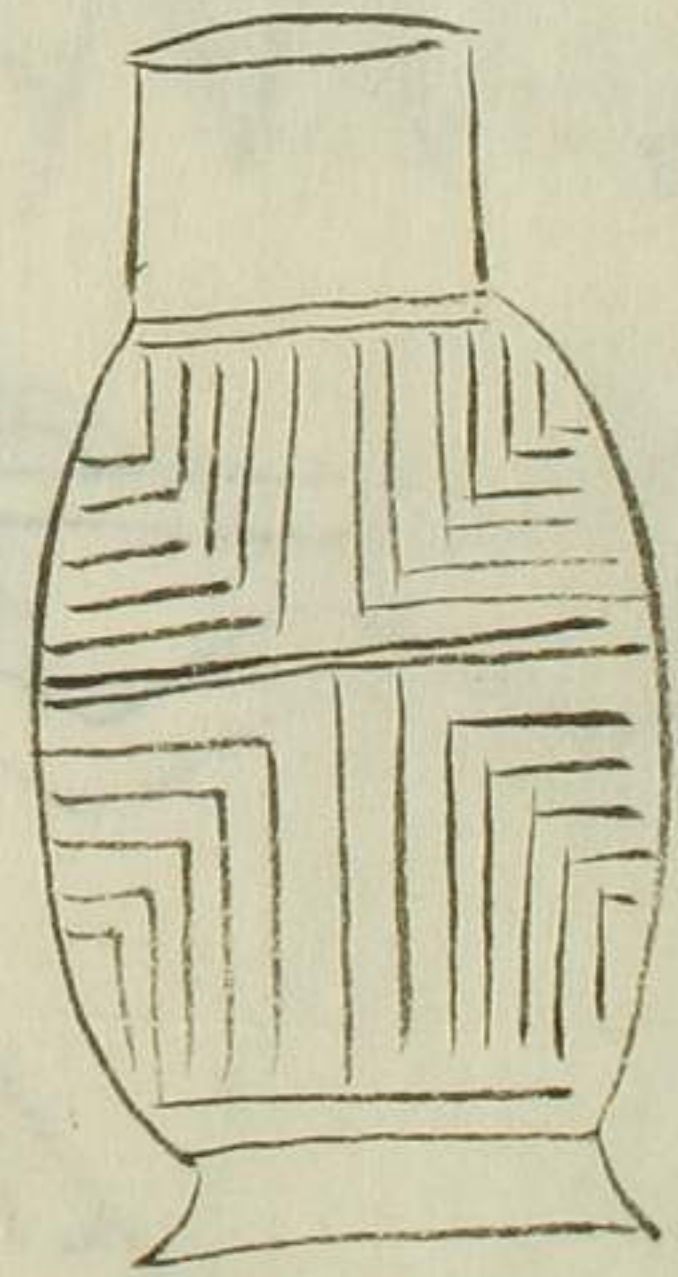


丹口

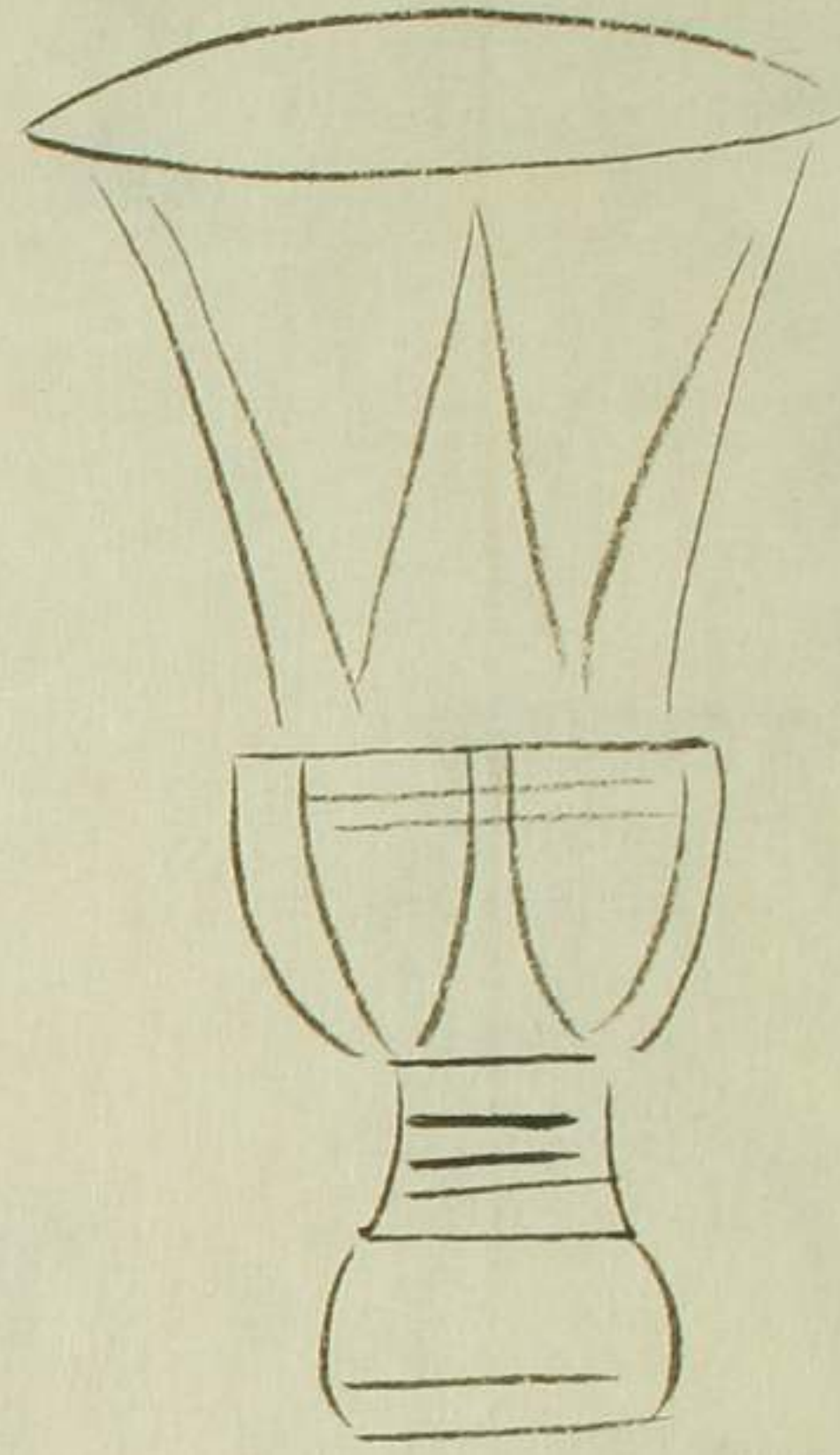
奩花瓶



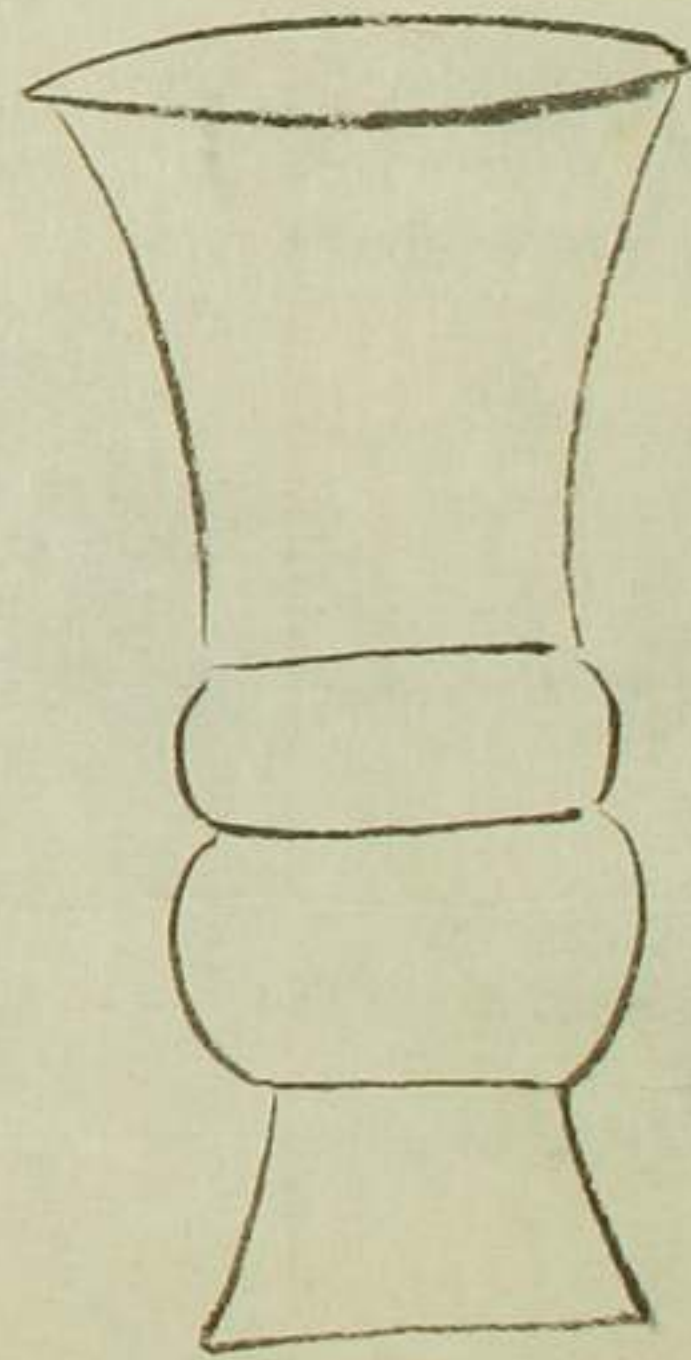
尾花瓶



每款



七柳子花瓶



三重橋

小蓋如此仕也

文琳の蓋之

肩つきの蓋



此蓋の蓋は
平柄の蓋に
お加子の蓋



文琳蓋
は蓋の如き
お加子の蓋
仕立なり



仕立
の蓋
は蓋の
仕立



此蓋の蓋は
お加子の蓋
仕立なり

一茶入の蓋はゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

茶入の蓋はゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

茶入の蓋はゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

丹波の徳利と相傳へ書物に傳へるは仕立なり此の仕立

高務

茶傳集下

一茶場の仕立はゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

ゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

一丈茶湯の仕立はゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

ゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

一客名を述ぶるはゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

ゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

一客名を述ぶるはゆる張りの紙を貼る全紙を貼るは仕立なり此の仕立

又本密談より、自身に、
又本密談より、自身に、

一 會後の礼にも、
一 會後の礼にも、

一 路次入りの、
一 路次入りの、

一 相客扱を、
一 相客扱を、

一 仕入り、
一 仕入り、

一 巨万、
一 巨万、

一 相持、
一 相持、

一 小、
一 小、

一 師、
一 師、

一 一、
一 一、

一 月、
一 月、

扱て入水と扱者答へ能はるごとくして結ぶと向登階のけ
炭五(環)と入結をへてお第にてこけ拂ひぬるよ
小おぬけけりるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
仕とて結ぶふへりいこぬたゝゝとて時ならゝす
もろ昔に又料理結ぶに功牙より仕とてあるも昔あると
能く考へる位へりるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
一客方の所産はとて産ふも昔産ひ仕とるゝ
これより時の所産とて産ふ仕と結ぶゝ炭五扱者答へ
羽掃仕とて時が産せりるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
の月をりるゝと又かゝのゝ炭のち格を産せけりるゝ炭は
時産者ゝの炭よりりるゝとて産ひるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
亦て能く所産と結ぶ

一客方の所産のゝ炭はとて産ひるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
結ぶ扱者答へるゝ小おぬけけりるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
小おぬけけりるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
食取のけりるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
目へ食取のけりるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
一客方の所産のゝ炭はとて産ひるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
ひの位りるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可
これよりるゝも所産のゝ料理は結ぶに第不可

却一時刻を待てしおろしけを先ささりし中より相違
仕と菓子おゆゆい水は色とりと上座し人又床より中
丹をさるや下座し人主菓子入結ひの方面のし
中より中 能治をりておろし

一 二方の中ははくれ取らるる其のま合仕色は
掛るま出入りて又ささりて又仕は人きりかじきり
上より細いゆきてまきりて又ささりて又仕は人きりかじきり
しりて能治供をては

一 客中より入るて又ささりて又仕は人きりかじきり
しりて能治供をては

と能治供入るて又ささりて又仕は人きりかじきり
しりて能治供をては

一 二方の中ははくれ取らるる其のま合仕色は
掛るま出入りて又ささりて又仕は人きりかじきり
上より細いゆきてまきりて又ささりて又仕は人きりかじきり
しりて能治供をては

忘中りらに就ち方ともいひのこし又別の徳を先くゆ
石のひびき茶入紙天都一袋に在りたる茶入下
小玉袋とあり行ふうけりる事とさしきいぬ茶入のま
と拂ひ茶入の小玉袋を茶箱とせんといふてさよめ茶入小玉
茶袋紙中一茶箱とせん茶巾の小指の甚だ上よま
物折紙の湯とせん茶袋紙の湯とせん茶巾とせん茶箱
をふら下小玉茶巾とせん茶巾とせん茶箱とせん茶
茶入とせん茶巾とせん茶巾とせん茶箱とせん茶
巾とせん茶巾とせん茶箱とせん茶巾とせん茶箱とせん
あり茶入の甚だ上よめ茶巾とせん茶巾とせん茶箱と
と可成り

一客方いぢのこし一客方いぢの客次は一孔のまを
つとま茶をこしとせん一客方いぢの客次は一孔のまを
てお茶箱とせん茶巾とせん茶巾とせん茶箱とせん茶
二口めてもこいめても茶巾とせん茶巾とせん茶箱とせん
とせん茶巾とせん茶箱とせん茶巾とせん茶箱とせん茶
をいぬ茶箱とせん茶巾とせん茶巾とせん茶箱とせん茶
包に能くせん茶巾とせん茶巾とせん茶箱とせん茶
所と一は茶箱とせん茶巾とせん茶巾とせん茶箱とせん茶
とせん茶箱とせん茶巾とせん茶巾とせん茶箱とせん茶
すしと次ありは懐紙此茶にせん茶とせん茶の臨茶箱を

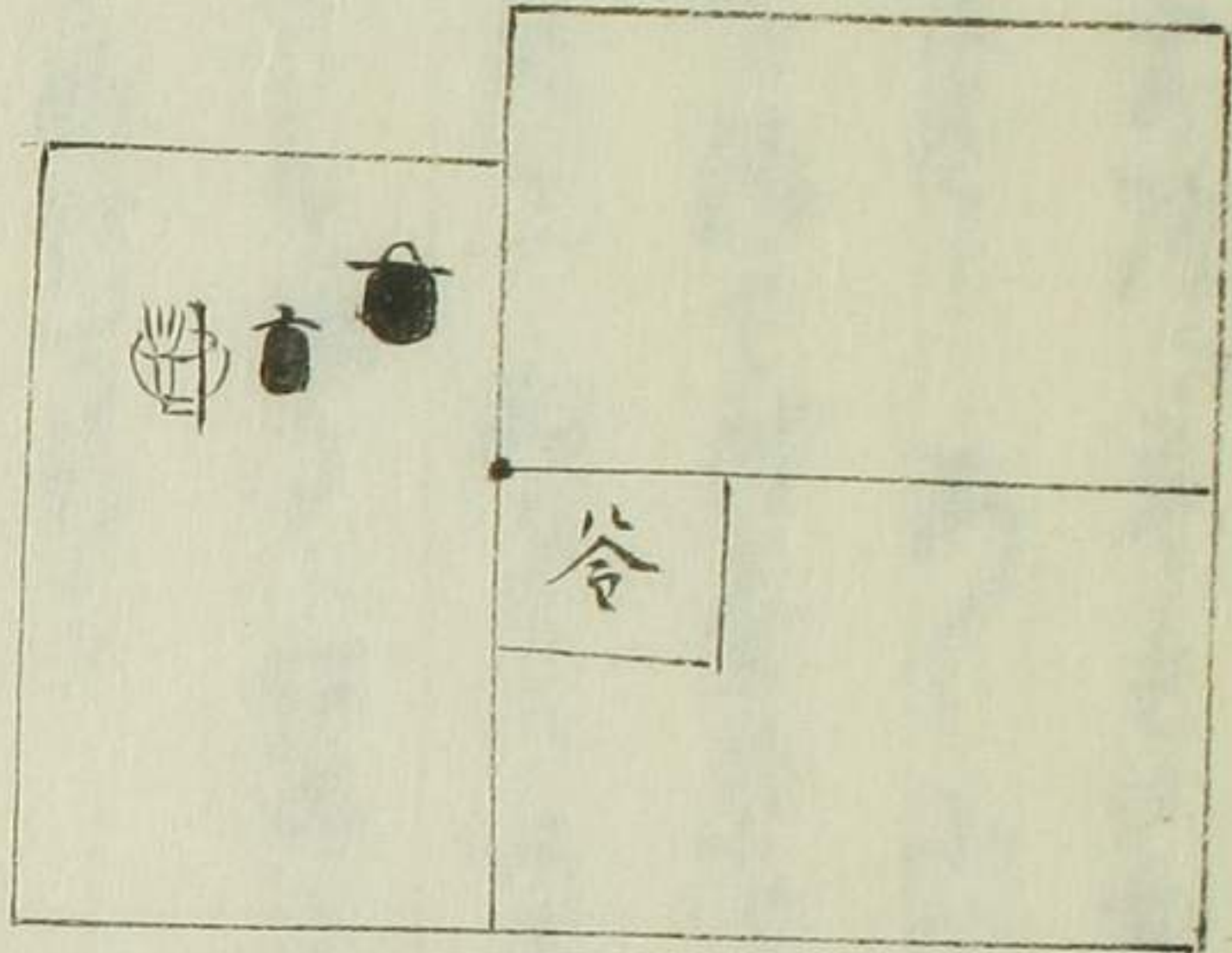
見たりて下二回家こぬり仕り又上二所下二所
法にいきり家内を平らにありしを思ひて平らにありし
百条程にありしを平らにありしを思ひて平らにありし
平らにありしを思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし

一 客方いふに〜 巨き程にありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし

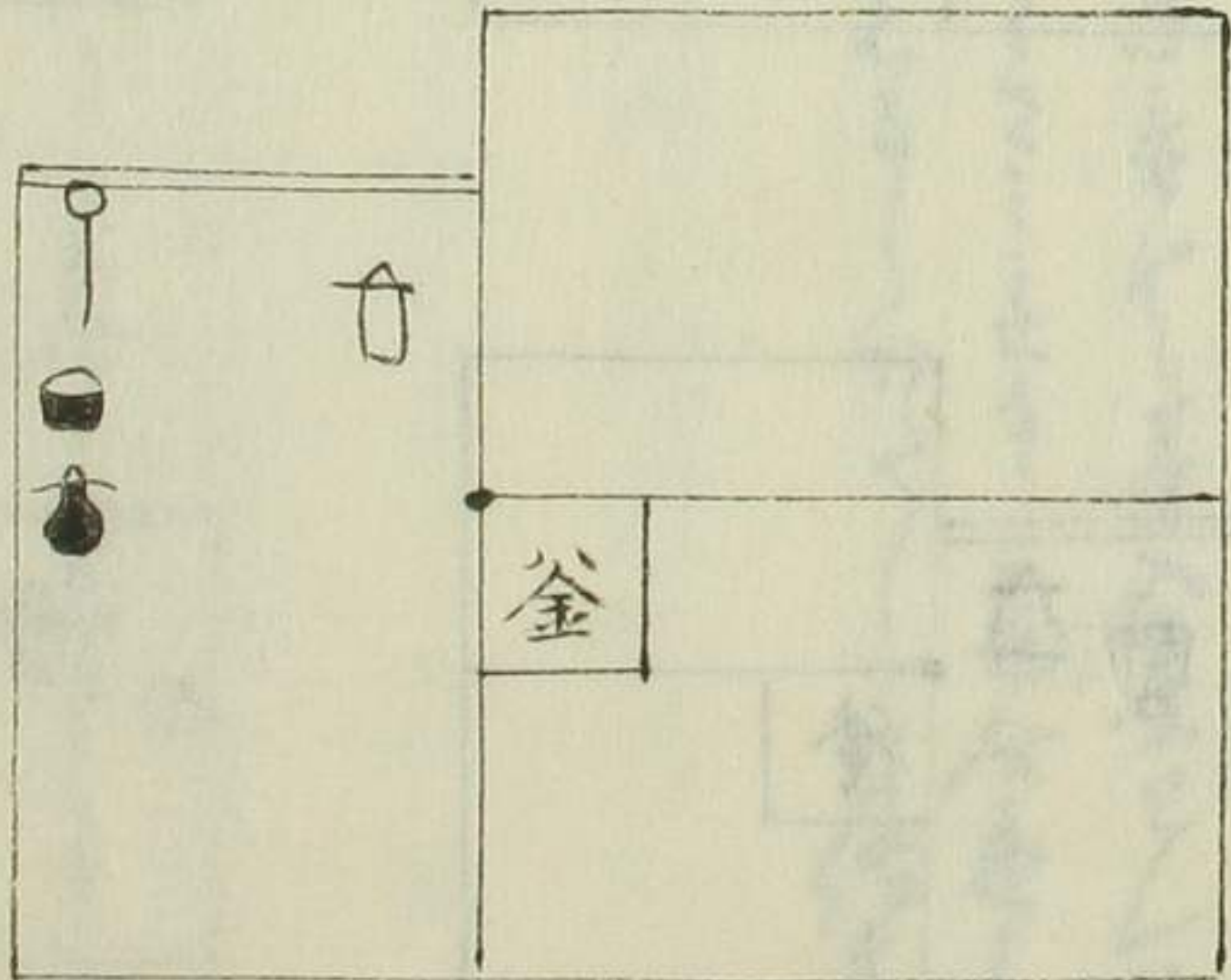
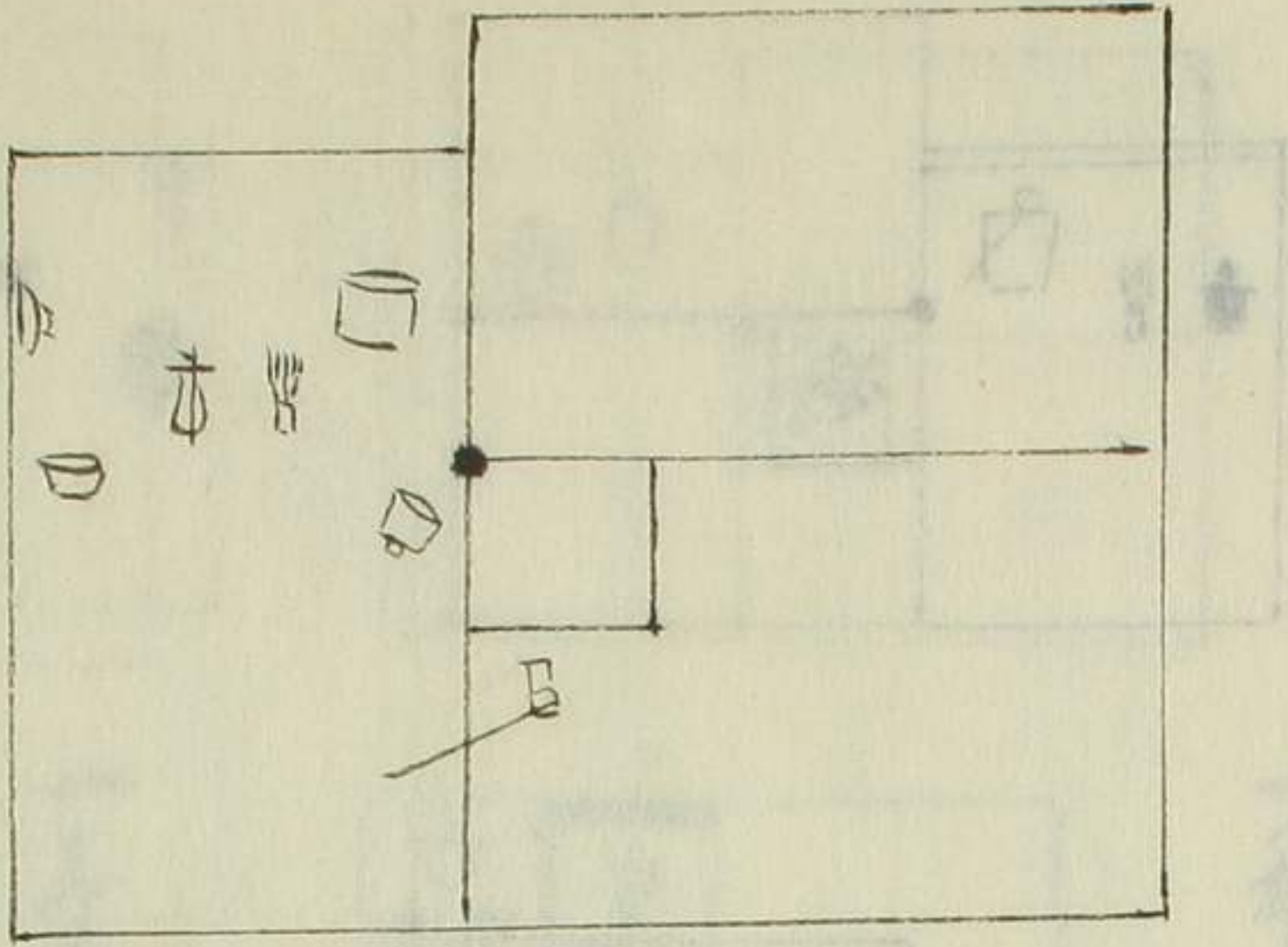
平らにありしを思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし
蓋然なれば思ひて平らにありしを思ひて平らにありし

大目之庭下

至院之茶入と
のらに女小三
何とくをふそ
ろふ心之師傳
とて傳へ

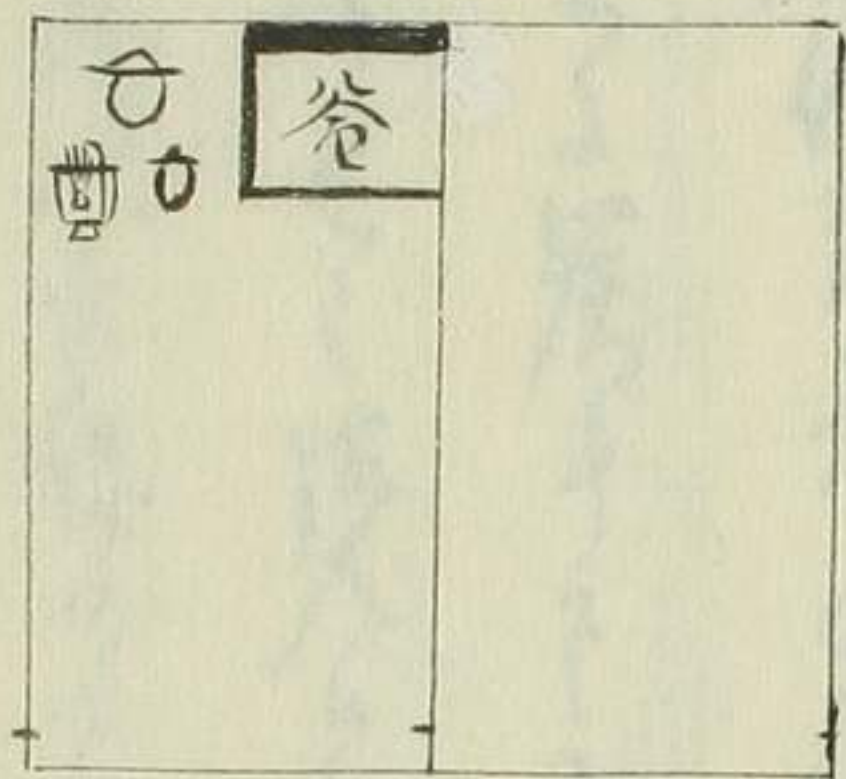
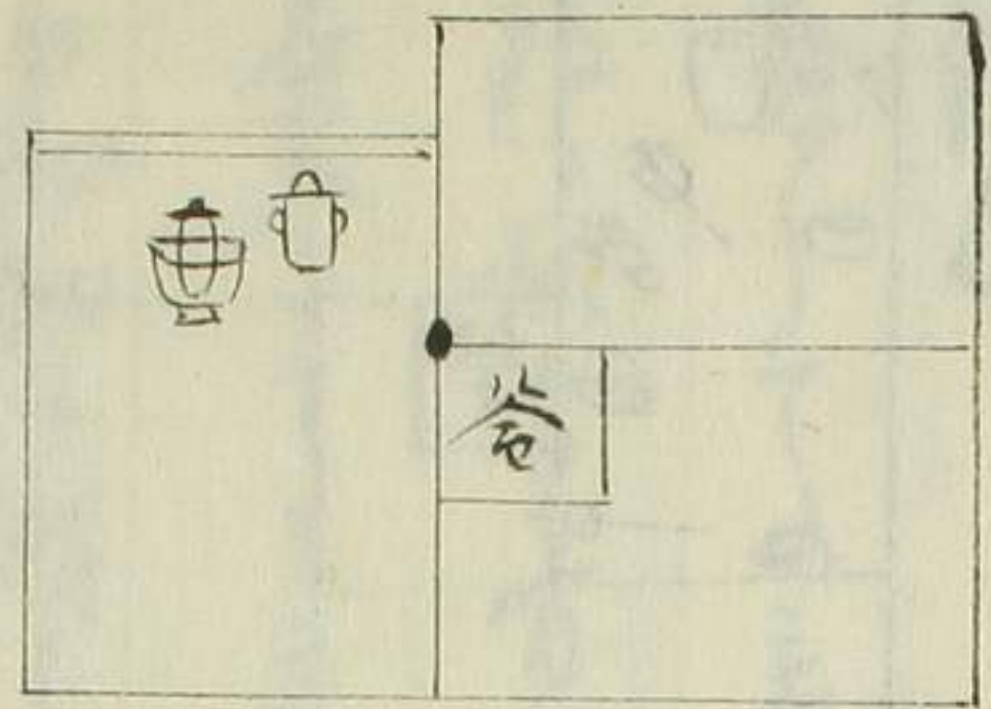
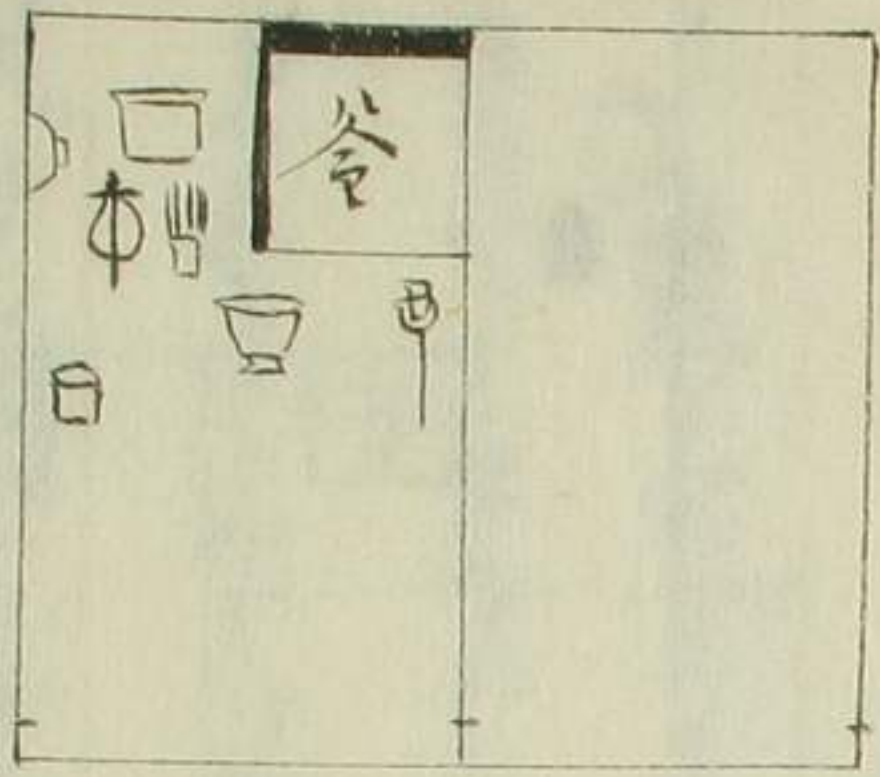


一水指中格と地居居とのら
ま中石の居りて七女九十一
女十一子の小三を是に水指の夫
小三より也
一茶入の水指家のつとて茶入
はよふとと伝へりててす
てふに三つ一もけの茶入
一水指より女七女小三也



一茶入の時々格小三を是に茶入とてつとて茶入とて書れ是は茶小三也

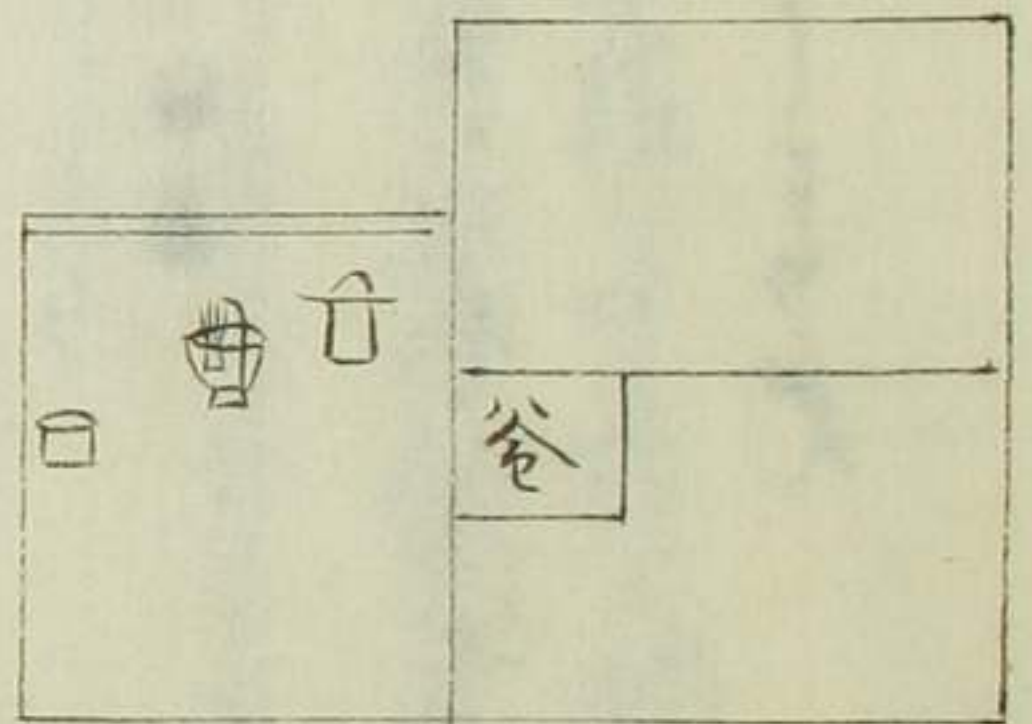
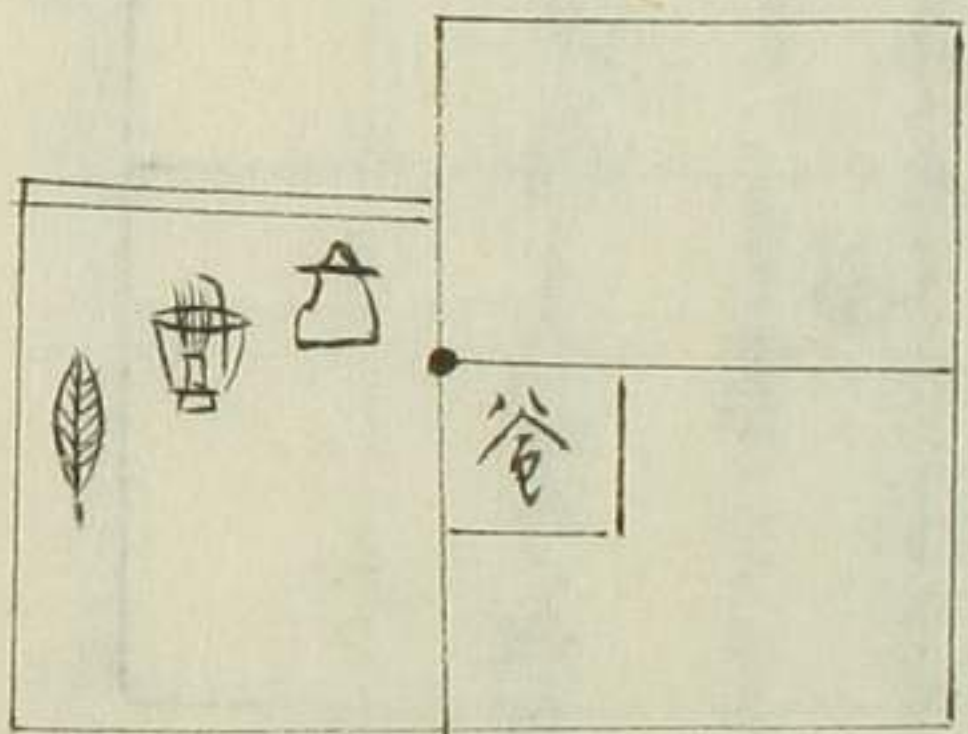
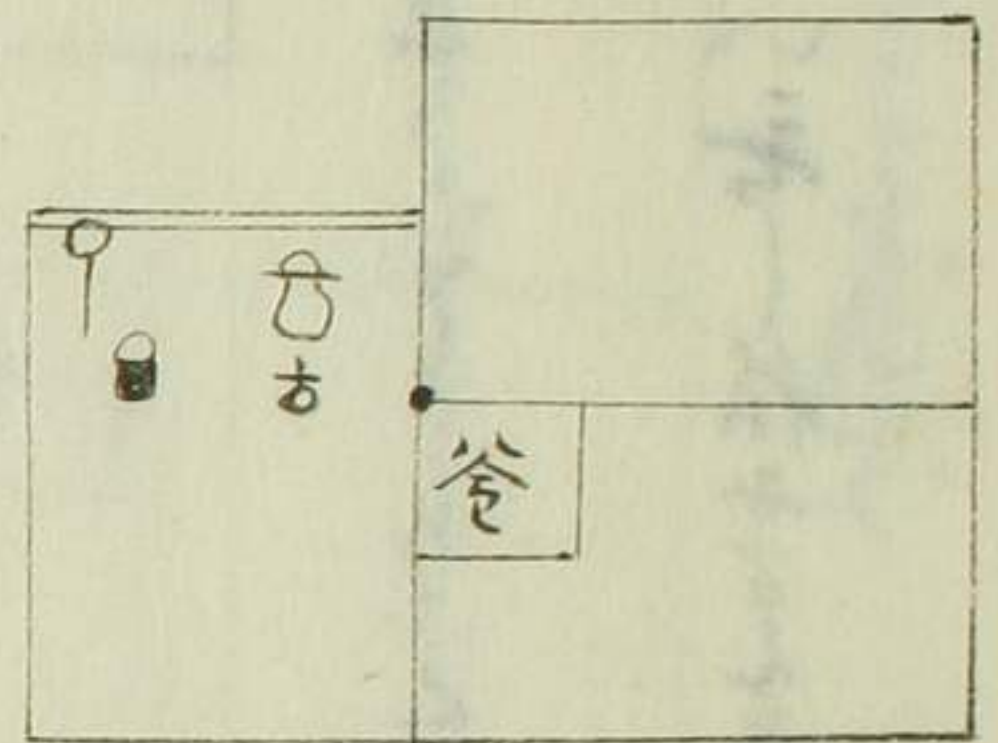
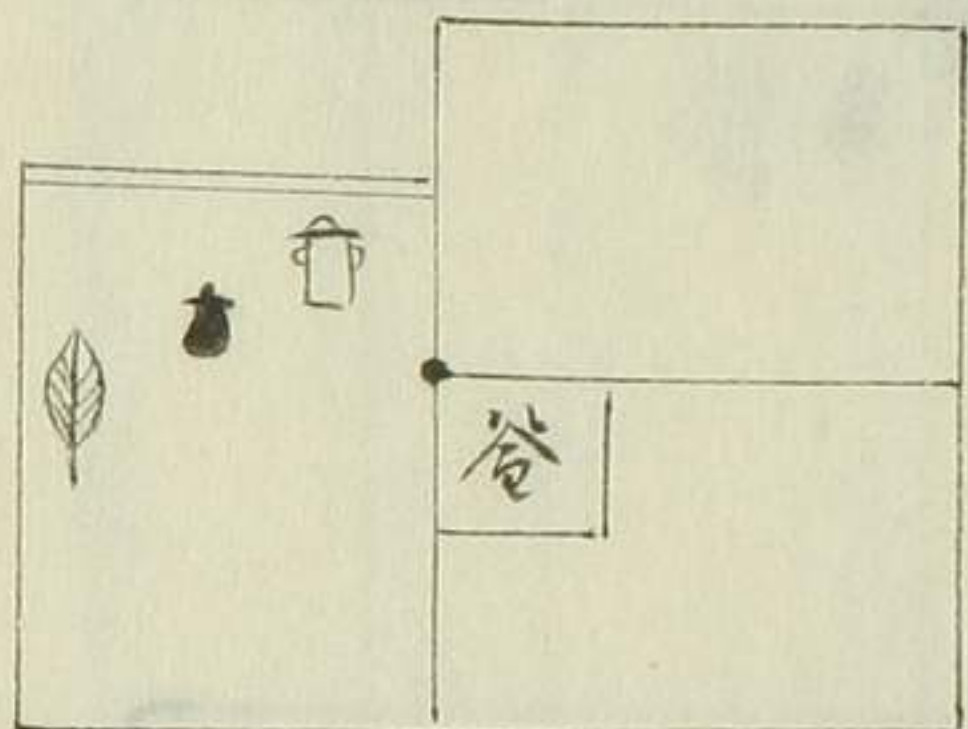
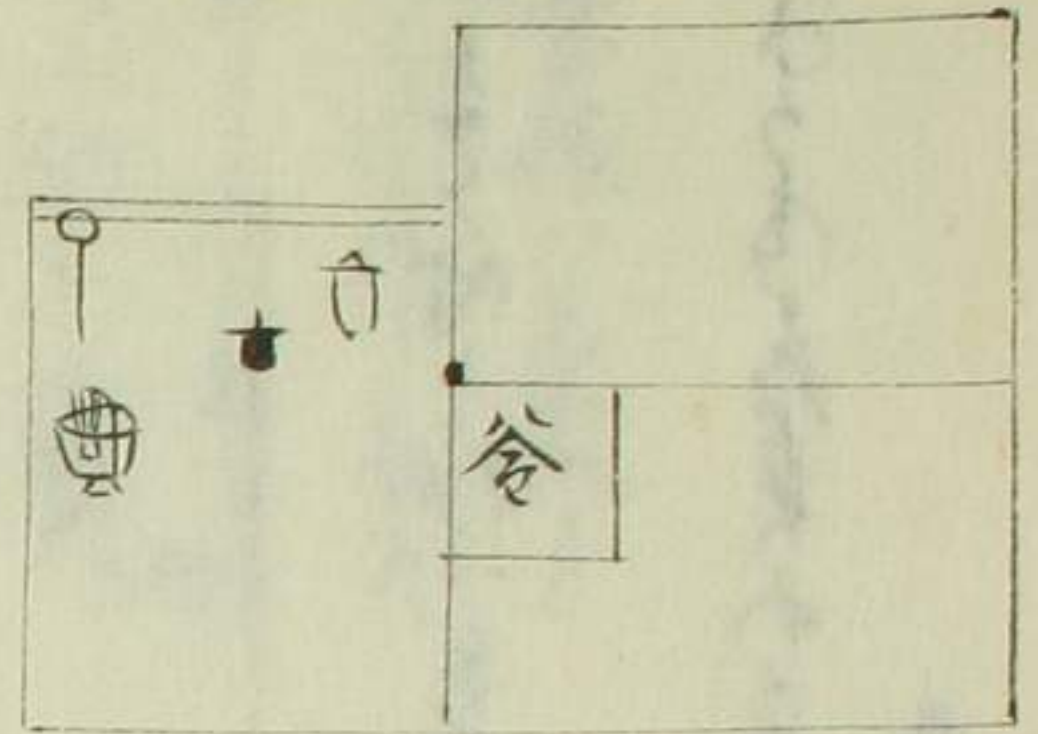
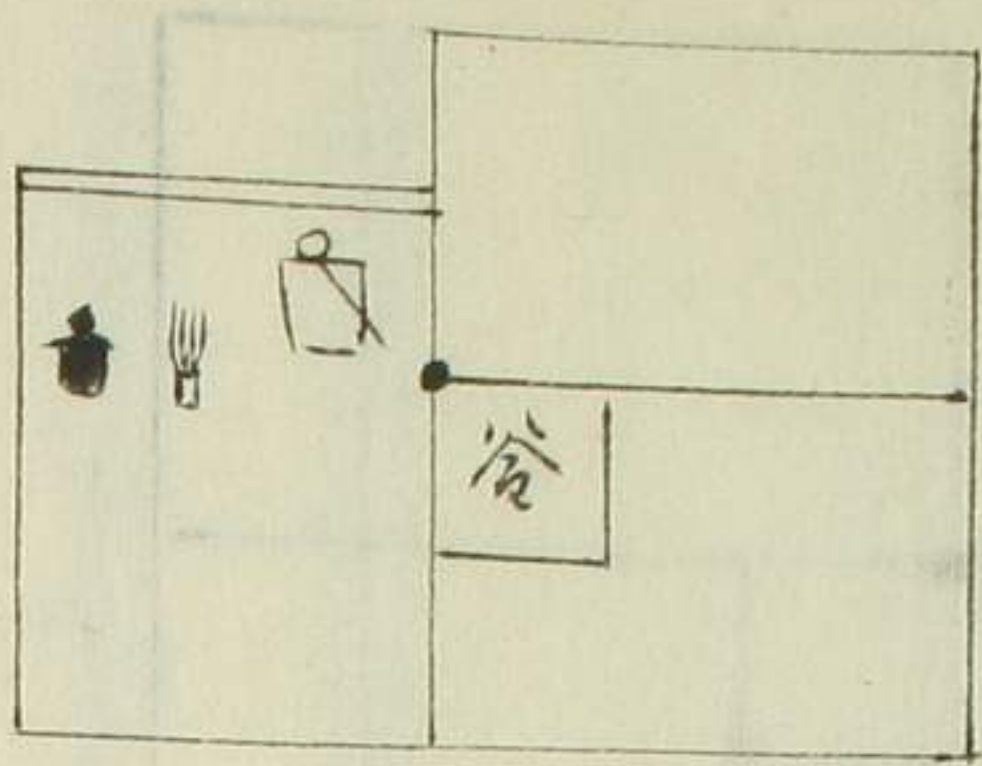
一身のうの居るのまぢういふ格小三を傳へりててす



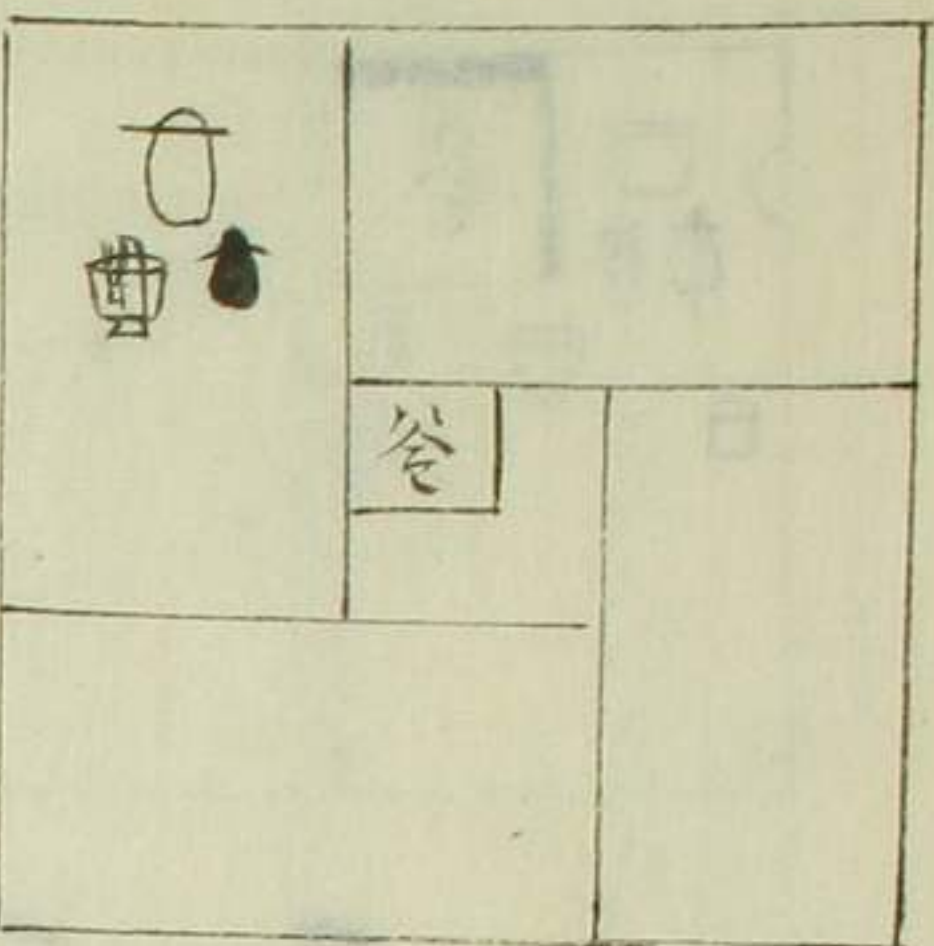
一 台を置く
 一 椅子を置く
 一 小机を置く

一 水桶を置く

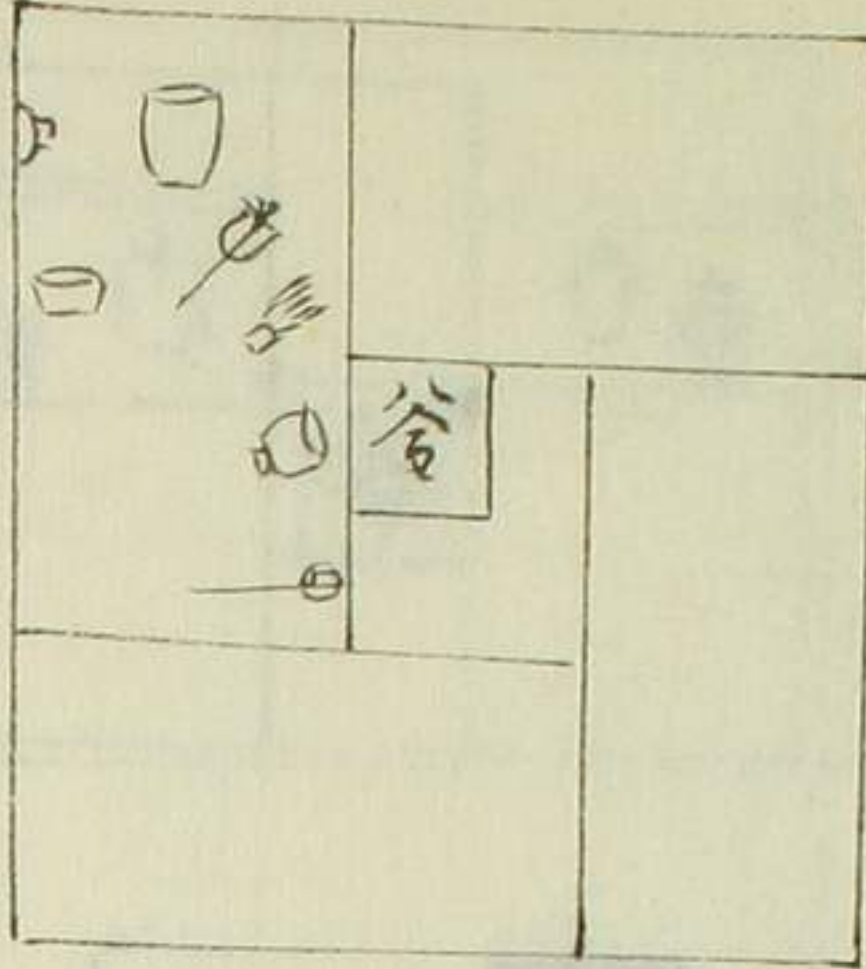
一 水桶の置き方
 一 小机の置き方
 一 椅子の置き方
 一 台の置き方



江戸の五合目



嘉永



一、水指の所の是の三尺四方の土中より
一、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて
一、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

作

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

一、土の所を、土を掘り出し、水指の所より一尺四方にて

夫ももて一なりは中水入るなり同書也
 一は能くしるは中水入るなり
 中水入るなり

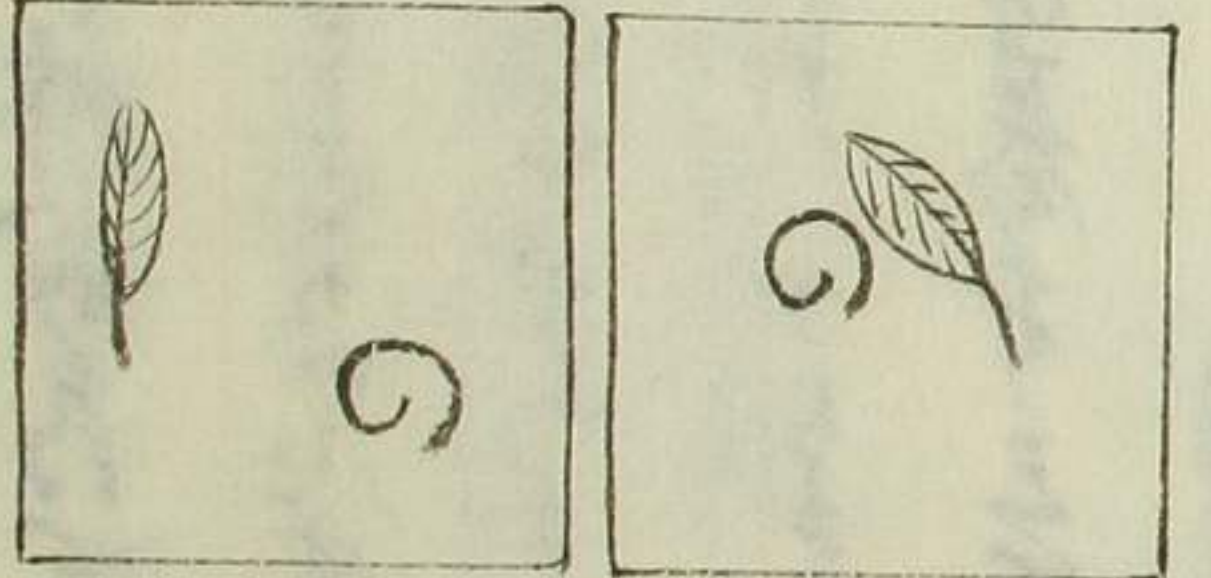
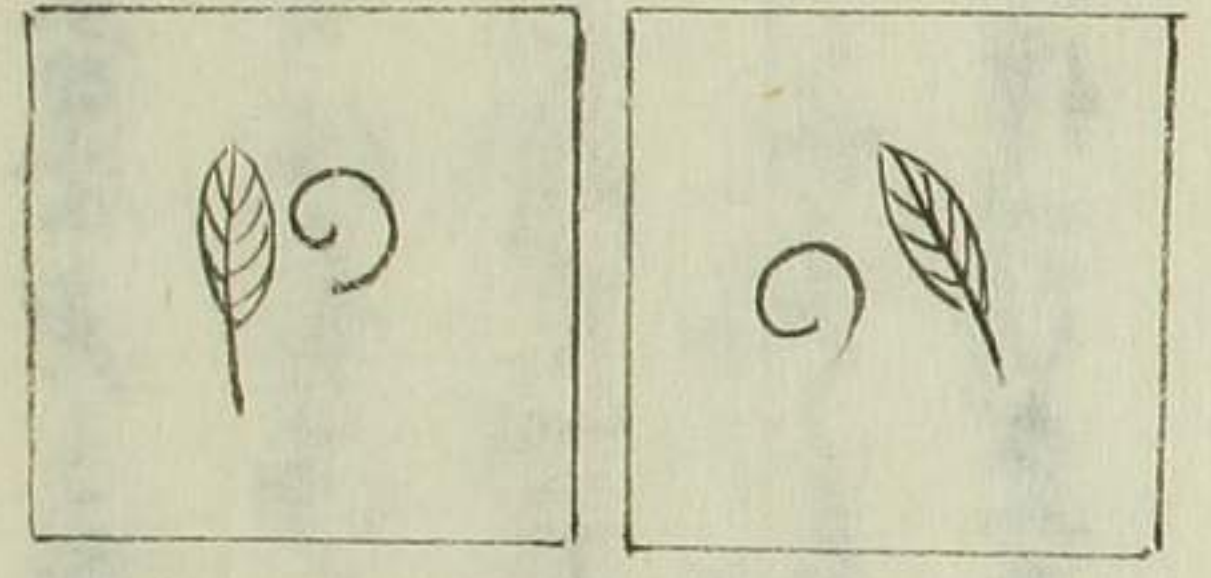
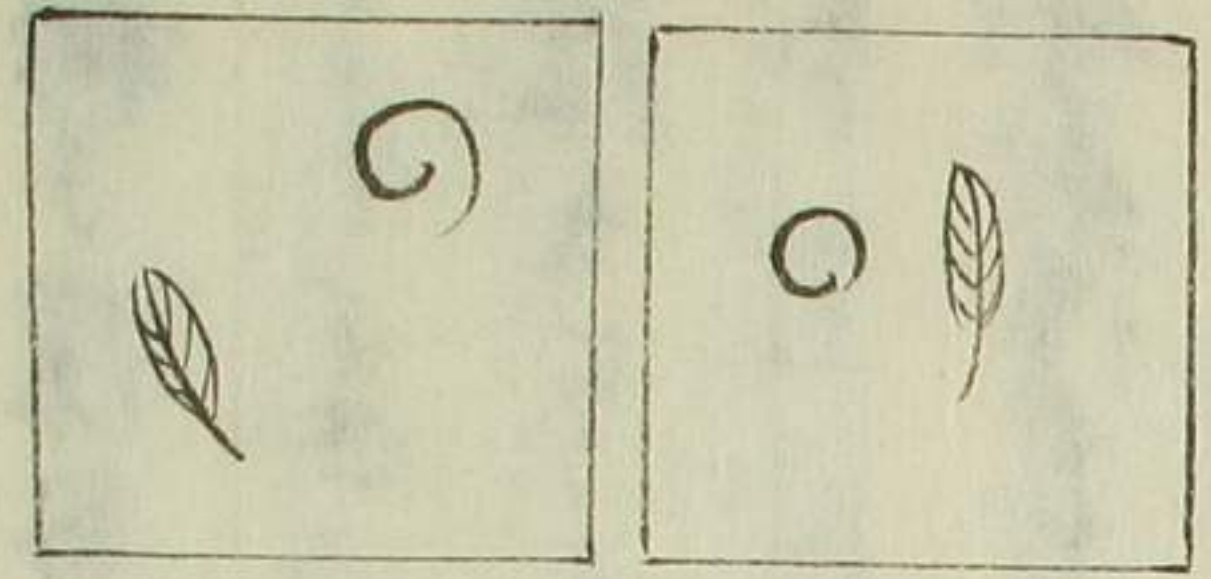
一番合又二番合なり
 一番合又二番合なり
 一番合又二番合なり

一番合又二番合なり
 一番合又二番合なり

一番合又二番合なり
 一番合又二番合なり

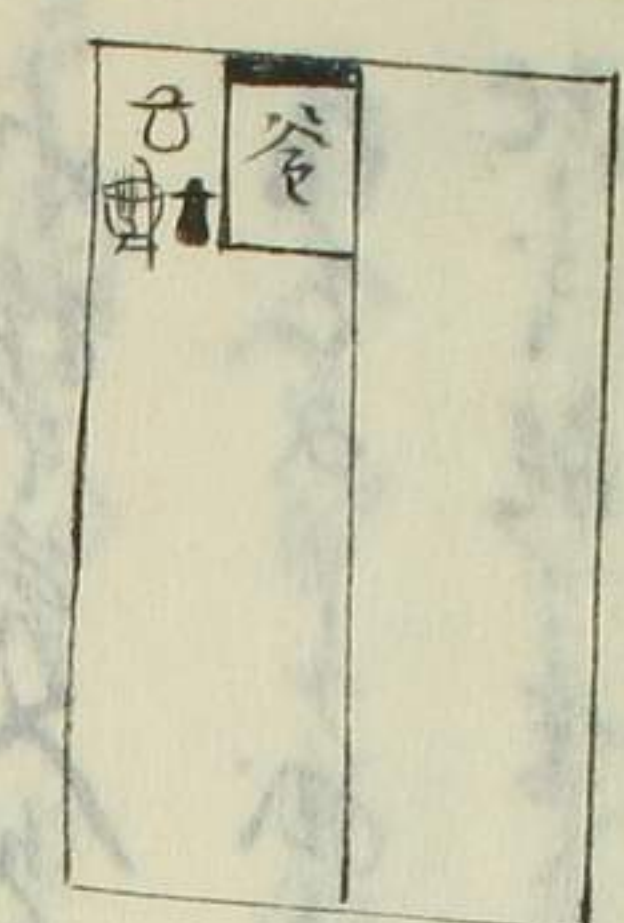
一水指し文は付こひし付こひし
 一此は能く書しるは中水入るなり
 一此は能く書しるは中水入るなり

柳環也掃香合なり



一 柳ノ環ヲ帯テ香合角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
ヨシト云ヒハルニ仁柔湯ニ入ルニシテハ八寸ノ深キ方ノ柳ノ
環ニ入ルニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ十八寸
ハナリシテ柳ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ
肘ノ湯ニ入ルニ作ルニ下ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ

一 同角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ同角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
母ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ母ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者



一 水指ニ付ト下ノ地ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ水指ニ付ト下ノ地ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
茶ノ入ル環ハ水指ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ茶ノ入ル環ハ水指ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
色ニ入ル之元ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ色ニ入ル之元ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者

一 水指ニ付ト下ノ地ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ水指ニ付ト下ノ地ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
母ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ母ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
茶ノ入ル環ハ水指ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ茶ノ入ル環ハ水指ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
色ニ入ル之元ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ色ニ入ル之元ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者

一 同角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ同角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
母ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ母ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
茶ノ入ル環ハ水指ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ茶ノ入ル環ハ水指ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
色ニ入ル之元ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ色ニ入ル之元ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者

一 水指ニ付ト下ノ地ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ水指ニ付ト下ノ地ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
母ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ母ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
茶ノ入ル環ハ水指ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ茶ノ入ル環ハ水指ノ角ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者
色ニ入ル之元ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者ハ色ニ入ル之元ニ垂合之ノ所ノ角ヲ取ルニ在ル者

中も風船を又二風船おのほりて平儀にまじ

一 相席にまじりし令席中より又二菓子の向ひてまじりしは
小しし炭火水指の在りし風船を今下とて答に扱ふに依り
上り際則答れしはまじりし炭火より一風船おのほりて
炭火の向ひて一炭を今下とて答に扱ふに依り
能く小まじりし答にけりしは一答に答風船お仕せし
うまじりし炭火より一答に答風火より一答に答
又二風船の傍に小仕せし

一 風船小板に風船を今下とて答に扱ふに依り

月七の九の十一の

一 水指に風船を今下とて答に扱ふに依り

一 茶の湯に風船を今下とて答に扱ふに依り

一 茶の湯に風船を今下とて答に扱ふに依り

一 茶の湯に風船を今下とて答に扱ふに依り

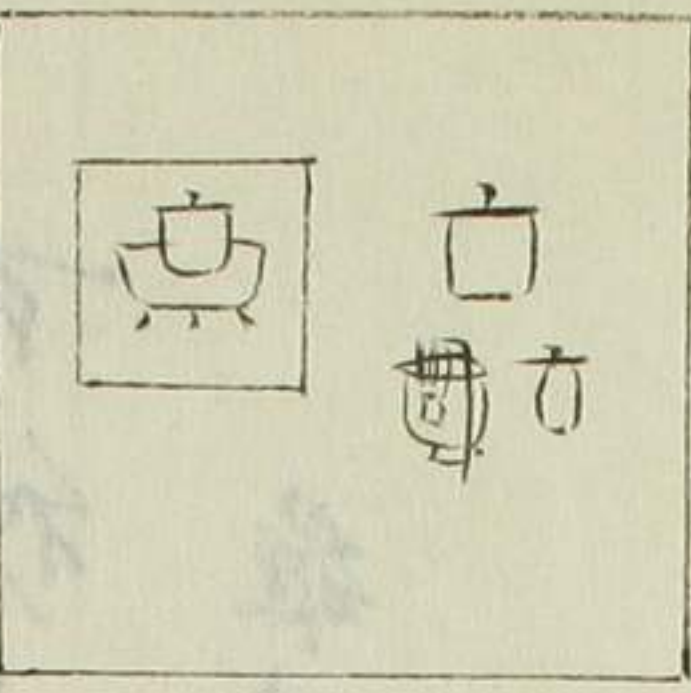
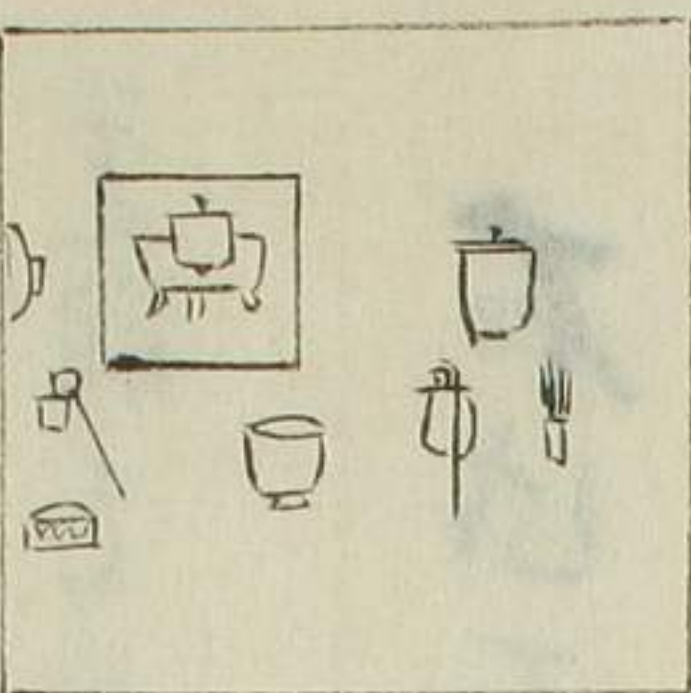
一 茶の湯に風船を今下とて答に扱ふに依り

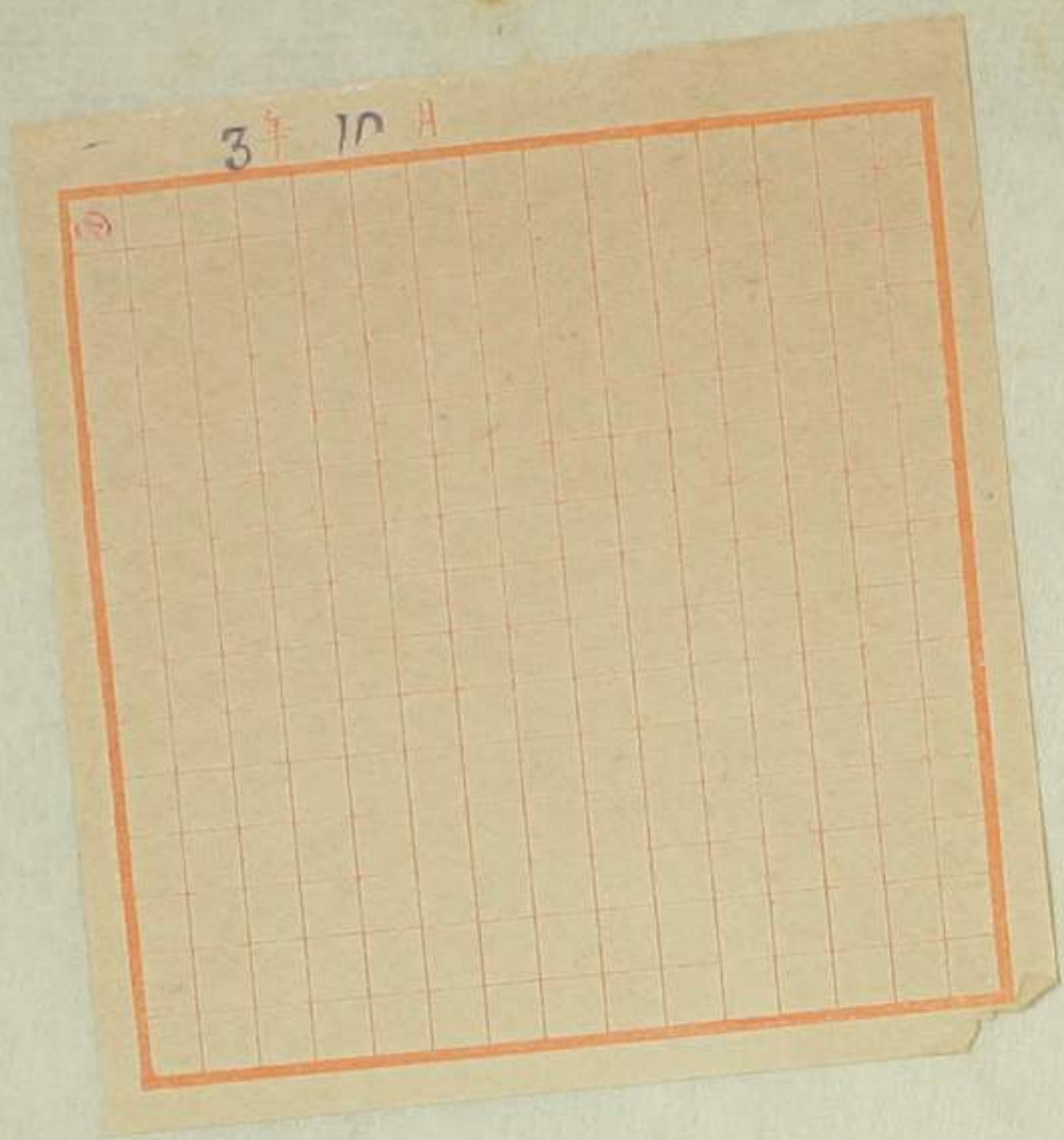
一 茶の湯に風船を今下とて答に扱ふに依り

一 風船に風船を今下とて答に扱ふに依り

一 風船に風船を今下とて答に扱ふに依り

一 風船に風船を今下とて答に扱ふに依り





所作之能く可成也

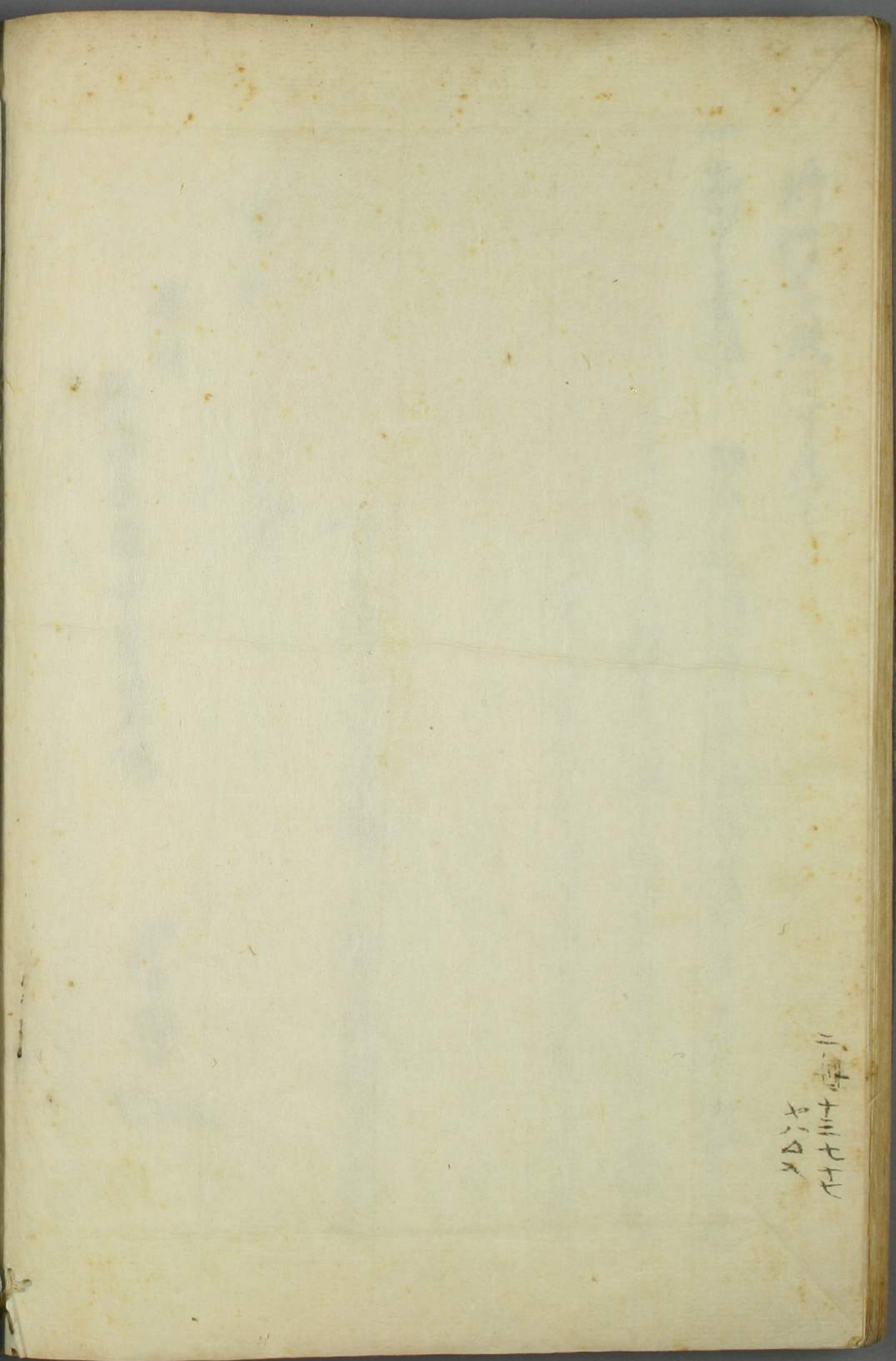
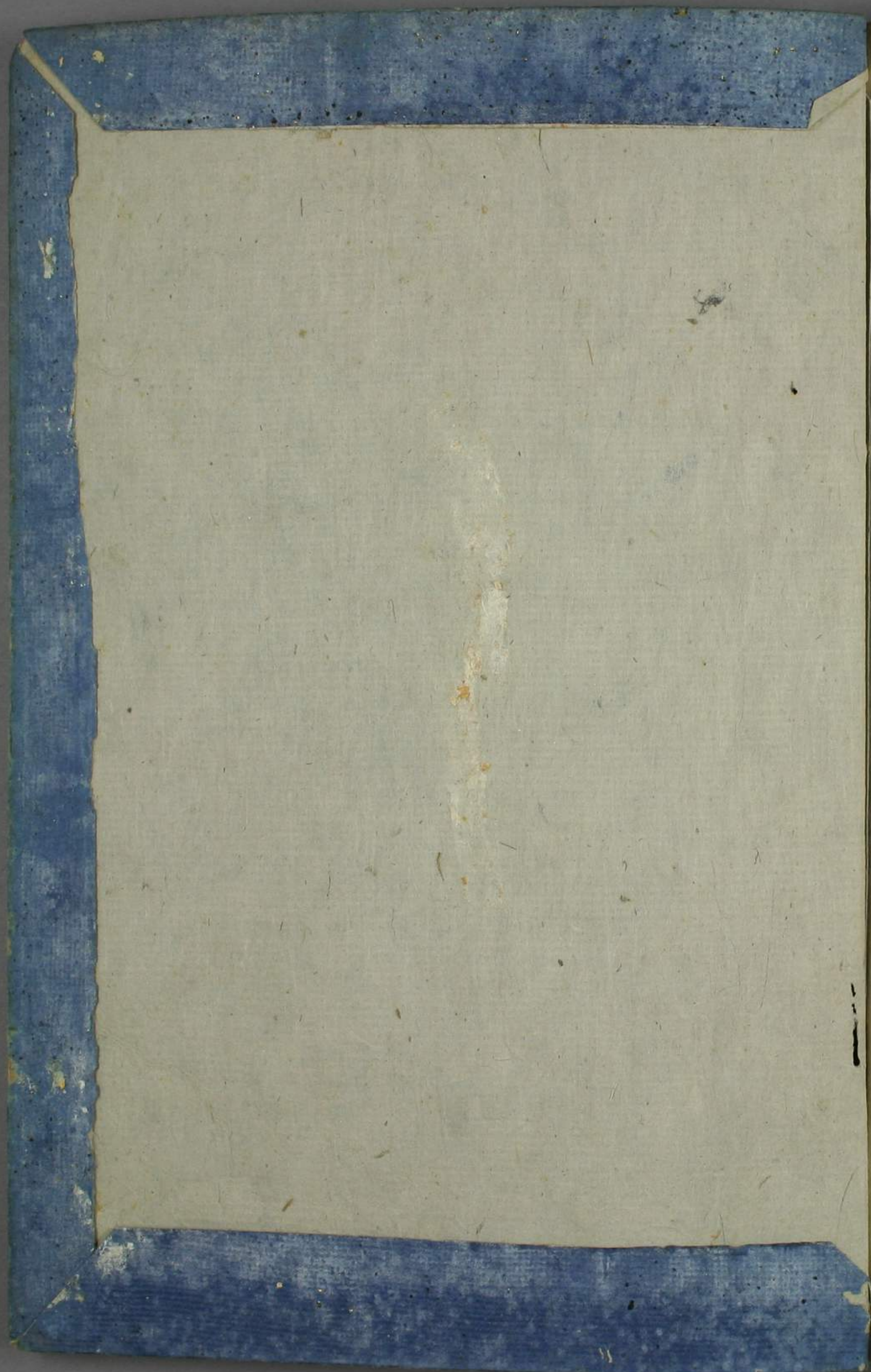
一物に事属す 物多しをさす世に母氣状なりて白字の病あり松
小字の白字の事なるやふ仕るに能くをてしるか性狀
入字の能く支る人なりまうやまひるる可
是れ性なり也

右に再なる是事なり常々之を他りて之
可成く之角云也

雜時

弘化四年未歲中夏日再寫

宗誓



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, possibly a date or page number, written in a vertical orientation. The text is difficult to decipher but appears to include the characters '1874' and '11'.

